

西 春 近 村

浦野啓十郎君

明治三十八年二月西春近村南學區會議員當選、同四十一年二月退職  
 同三十八年七月西春近村會議員當選、同四十一年四月十四年及大正三年同七年の各改選に再選同十一年七月迄  
 繼續勤務  
 同三十八年諏訪形衛生組合長勤務  
 同三十九年九月西春近村南學區學務委員に當選、同四十年十月迄勤務  
 同四十年諏訪形衛生組合長勤務  
 同四十一年三月西春近村助役當選就職、同四十三年十二月退職  
 同四十三年西春近村尙武會長勤務  
 同四十三年十二月西春近村長に就職、大正三年一月退職  
 同四十五年大正元年法正寺檀徒總代  
 大正三年二月西春近村南學區會議員當選、同七年二月再選、同十一年二月退職  
 大正三年九月西春近村學務委員當選、同七年九月再選、十一年九月迄勤務  
 大正八年十月上伊那郡會議員に當選、同十二年三月郡制廢止に至る迄勤務  
 其他村及區の公共事務に執掌せる所尠からず現在方面委員勤務中なり

西 春 近 村

故黒河内猪之吉君

明治三十年城耕地總代勤務  
 同三十五年八月西春近村長に就職、同三十六年九月退職其間同村尙武會長勤務  
 同三十六年十月上伊那郡會議員に當選、同四十年十月滿期退職  
 同三十九年五月十二日上伊那郡參事會員に補充當選、四十年十月滿期退職  
 同三十八年二月西春近村北學區會議員當選、同四十四年三月迄勤務  
 同三十八年七月西春近村會議員に當選、同四十四年七月迄勤務  
 同四十年八月再び西春近村長に當選就職、同四十一年四月迄勤務、其間同村尙武會長を兼務  
 同四十年城耕地總代を勤務  
 同四十一年西春近村學務委員に當選、同四十一年三月迄勤務  
 同四十四年九月再び同村學務委員に當選、同四十四年一月迄勤務

西 春 近 村

故 黑 河 内 定 男 君

明治二十八年四月西春近村會議員となり三十四年三月再選せらる

同二十八年十二月より三十年十二月迄西春近村長勤務、其間同村尙武會長を兼務せり

同三十一年四月より三十五年七月迄同村土木委員勤務

同三十五年十二月より三十七年二月迄同村衛生委員勤務

同三十六年、四十一年、四十二年、城耕地總代勤務

同四十年十月上伊那郡會議員に當選、同四十四年十月滿期迄勤務

大正三年七月より七年六月迄西春近村會議員勤務

現代谷藏君は西春近村尙武會委員、城耕地總代、西春近村衛生組合委員、同村農會評議員等公共の事務に鞅  
掌せられつゝあり

西 春 近 村

酒 井 宗 吉 君

明治九年九月十五日を以て生る

明治三十八年赤木耕地總代當選

同四十一年七月西春近村會議員當選

同四十二年三月赤木衛生組合長當選

同四十三年九月部落有財産統一整理委員當選

同四十四年二月西春近村南學區會議員當選、大正三年二月退職

明治四十五年一月十六日西春近村助役當選就職、大正二年四月退職

明治四十五上伊那郡農會議員當選

大正三年二月西春近村南學區會議員當選、同七年二月退職

大正三年四月二十七日西春近村長に就職、同四年十二月十六日退職

同年七月二十日西春近村會議員當選、同七年七月退職

大正四年西春近村農會長就職

同七年九月西春近村學務委員當選、同十一年九月退職

同十一年赤木耕地總代當選

同十二年二月西春近村農會總代當選現職中

同十三年二月二十九日西春近村土木委員當選現職中

西春近村一九五番地

勳八等 北原米藏君

明治二十年十月十四日を以て生る  
 明治二十八年より三十年迄役場書記勤務  
 同三十年八月より衛生組合長前後五回就職  
 同三十二年より大正十一年迄廿四年間村學務委員勤務  
 同三十四年より現今迄二十六年間引續き村會議員勤務  
 同三十四年七月西春近村助役に當選  
 同三十四年より四十二年迄常設衛生委員勤務  
 同三十七年十一月西春近村長に當選  
 同四十年西春近村農會代表者及評議員當選  
 同四十一年二月北學區會議員當選勤務  
 同四十二年より現今迄學林取締委員勤務  
 同四十二年聯合衛生組合副長當選  
 大正元年春近尋常高等小學校改築專務委員となる  
 同九年西春近村農會選出上伊那郡農會議員となる  
 同十二年新農會令に依り評議委員となる  
 同十三年産業組合監事となる  
 同十四年方面委員となる  
 同十四年土木委員となる  
 其他農事小組合長、養蠶組合長、耕地總代三回、檀徒總代二十四年、就學督勵委員、會計檢査立會人數回、公有山野分割整理委員、部落有財産統一整理委員等村

及區の公共の事務に執掌せること尠からず  
 明治三十七八年事件の功により勳八等に叙せられ白色桐葉章を賜はる  
 大正八年二月十一日教育上の功績に依り長野縣知事より表彰せらる  
 大正十年村會議員二十年以上勤績に付郡長より表彰せらる

表彰状

上伊那郡西春近村學務委員

北原米藏

多年教育ニ關スル公務ニ從ヒ忠實熱心其職務ニ執掌シ初等教育ノ普通上進ニ關シ其功績尠カラズ仍テ大正六年一月縣令第四號普通教育獎勵規程第四條ニ依リ銀壹個ヲ授與シテ之ヲ表彰ス

大正八年二月十一日

長野縣知事正四位勳三等 赤星典太

西春近村

北原錦十郎君

明治二十八年同三十七年同四十二年同四十四年同十年同十四年の前後六ヶ年西春近村下牧耕地總代勤務  
 明治卅二年三月西春近村青年會長に當選二ヶ年間勤務  
 同三十四年七月西春近村常設衛生委員に當選同三十五年十二月退職  
 同三十五年二月西春近村南學區會議員當選、爾來每改選期に再選、大正七年迄勤績十六ヶ年  
 同三十六年三月村學務委員に當選、爾來每改選期に再選、大正十一年九月迄勤績十九ヶ年  
 同四十一年七月西春近村會議員に當選、同四十四年七月再選、大正三年町制改正に依り退職在職六ヶ年  
 同四十二年三月西春近村聯合衛生組合副長となり、大正二年五月退職  
 大正三年下牧耕地整理組合副組合長に當選、爾來現在勤績中  
 大正四年宮田西春近信用販賣購買組合監事となり、同十三年迄勤績十ヶ年

大正五年西春近村助役に當選就職  
 同七年一月西春近村長に當選就職、同九年六月退職  
 同七年三月西春近村青年會長に當選在職三ヶ年  
 同八年三月上伊那聯合青年會評議員となり、同九年十月退職  
 同八年三月西春近村農會長に當選、同十年三月再選、同十二年三月退職  
 同十年七月西春近村聯合衛生組合長となり、同十三年二月退職  
 同十二年五月村農會顧問に推薦せらる  
 同十四年十月村學務委員當選、現職中

西春近村

三澤鎌十君

明治五年七月十日を以て生る

明治二十三年四月西春近村役場書記に選任せられ、同二十七年十月迄勤務

同三十年八月より衛生組合副長勤務

同三十一年四月西春近村常設學務委員に當選、爾來同三十二年及三十四年に再選し、同三十五年四月迄勤務同三十五年二月より十月迄、西春近村北學區會議員勤務

同三十七年三月西春近村會議員補欠選舉に當選し、同四十一年及四十四年の改選に再選し、大正三年七月迄勤務十一ヶ年間

同三十八年三月西春近村産業督勵委員任命

同三十九年一月西春近村助役に就任、同四十一年十二月辭職

同四十一年及四十二年上伊那郡農事諮問會議員囑託

明治四十二年三月より大正二年三月迄、西春近村聯合衛生組合長勤務

明治四十三年九月より大正三年九月迄、西春近村北學區學務委員勤務

明治四十五年一月より大正二年十二月迄小出耕地總代勤務

大正五年一月長野縣結核豫防協會地方委員を囑託せらる

大正五年一月西春近村長に就任、大正六年十二月辭職

大正五年四月西春近村農會長に就任

大正七年二月西春近村北學區會議員に當選し、同十一年二月再選現任中

大正七年九月西春近村北學區學務委員に當選、同十一年九月再選現任中

大正十年十月より山本耕地整理組合副長會計勤務中

大正五年十一月春近學校開校記念として、理科學器械(金壹百圓)を寄附し、其賞として縣知事より木杯を下賜せらる

西春近村

平澤銀重君

明治三十五年八月より三十九年八月迄西春近村北學區學務委員勤務

明治四十一年東縣耕地總代

明治四十二年東縣衛生副組合長

明治四十三年東縣尙武會長

明治四十四年二月より大正三年二月迄西春近村北學區會議員

大正元年小學校建築專務委員

大正三年六月より同五年五月迄西春近村助役

大正三年七月より同七年二月迄西春近村北學區會議員

大正七年東縣耕地總代

大正七年七月より同十一年七月迄西春近村會議員

西春近村

飯島藤一君

明治十九年九月を以て西春近村城に生る  
明治三十六年三月上伊那農業學校卒業  
消防組役員、耕地總代、村會議員、學區會議員、農會  
役員等公共の事務に盡瘁せる所尠からず  
大正十四年九月西春近村長に就職  
尙武會長を兼務郡内少壯村長として村政に鞅掌せられ  
つつあり

宮田村

伊藤源一郎君

明治八年五月二十四日を以て生る  
明治三十九年五月宮田消防組頭を命ぜらる  
同四十三年十二月上伊那消防同盟會より賞狀を受く  
大正二年長野縣警察部長より功勞賞を受く  
大正五年十月宮田消防組部長を命ぜらる  
同十二年十月辭職  
同八年一月一日就職  
同十二年四月村農會總代當選就職  
同年十月上伊那消防同盟會より表彰狀を受く  
同十三年九月二十九日宮田村助役就任現職中  
同十四年四月宮田村會議員に當選現任中

宮

田村

新谷孫八郎君

明治十五年三月十日を以て生る  
明治三十三年四月より宮田村役場書記就職  
同三十六年四月迄勤務  
同三十七年四月再び村役場書記に就職  
同三十八年五月迄勤務  
明治四十二年十一月宮田村收入役に就職  
同四十四年八月迄勤務  
大正六年四月宮田村會議員に當選  
大正十年四月再選、同十四年三月迄二期勤務  
大正七年及八年中越耕地總代勤務  
大正七年村是調査委員勤務  
大正九年二月より十一年二月迄村會計検査員勤務  
大正十三年二月より十四年二月迄同上勤務  
大正九年八月宮田村助役に就職  
大正九年十二月迄勤務  
大正十三年五月宮田村長に就職現任中  
大正十五年天龍川治水特別委員當選

宮田村六六九番地

### 春日運治郎君

明治十三年六月二十日を以て生る  
 明治三十年三月一日村立西春近尋常高等小學校教員に  
 任命、同三十四年三月三十一日村立宮田尋常高等小學  
 校へ轉任、同三十七年四月二十八日退職  
 明治三十七年八月十七日宮田村書記任命、同四十五年  
 二月二十日退職  
 明治三十八年二月十一日宮田村消防組北割部長任命、  
 大正五年四月五日退職  
 明治四十三年一月一日村社元宮神社氏子總代に當選、  
 大正二年十二月三十一日滿期  
 明治四十四年一月一日北割耕地評議員に當選、大正元  
 年十二月卅一日滿期  
 大正二年一月一日北割耕地評議員に當選、同三年十  
 二月卅一日滿期  
 大正二年四月廿九日宮田村助役就職、同五年二月十七  
 日村長に就職に付退職  
 大正三年一月一日北割耕地總代に當選

大正四年四月一日宮田村會議員に當選  
 大正五年一月四日宮田村農會長に當選  
 大正五年一月五日宮田村尙武會長に當選  
 大正五年一月六日宮田村聯合衛生組會長に就職、同九  
 年一月五日滿期同日再選、同九年五月二十日辭職  
 大正五年二月十七日宮田村長及宮田中澤伊那村三ヶ村  
 組合管理者に就職、同九年二月十六日滿期退職  
 大正十年一月一日北割耕地評議員に當選、同十一年  
 十二月卅一日滿期  
 大正十年一月十一日宮田村聯合衛生組會長に當選  
 大正十年四月十五日眞慶寺檀徒總代に當選  
 大正十年四月二十日宮田村林務委員に當選  
 大正十二年一月一日北割耕地評議員に當選、同十三  
 年十二月卅一日滿期  
 大正十四年一月一日北割耕地評議員に當選  
 大正十四年四月一日宮田村會議員に當選  
 大正十四年四月二十日宮田村學務委員に當選  
 大正十四年四月廿日會計検査立會人に當選  
 大正十五年二月廿八日會計検査立會人に當選

宮田村

### 故代田宇源治君

明治二十七年一月宮田村長就職  
 明治二十八年二月迄勤務  
 明治二十八年四月宮田村會議員に當選  
 明治三十四年四月再選任期中三十六年五月死去せらる  
 現代千童君は下伊那郡に生れ養はれて嗣子となる  
 慶應義塾卒業  
 大正十四年四月宮田村會議員當選現に在職中  
 同年同月村學務委員當選現に在職中  
 大正十四年四月及十五年四月會計検査委員勤務  
 大正十五年現在太田切發電所事件委員たり

宮 田 村

代田 與 八 郎 君

明治三十三年岐阜縣巡查教習所教官を拜命し、引續き同縣下各警察署長に任命せらる

明治卅六年静岡縣警察部衛生課僚拜命卅七年辭職

卅七年東京製皮會社に入社

明治四十年日本皮革株式會社に勤務

四十四年朝鮮皮革株式會社を起し重役となりしが病の爲辭職歸郷す

大正四年十月上伊那郡會議員に當選、大正八年十月迄勤務

大正六年四月宮田村會議員に當選、同十年三月迄勤務

大正九年より十三年迄同村駒ヶ原耕地整理組合長勤務

大正九年三月宮田村長に就職、同十三年三月迄勤務

其間衛生組合長、村農會長、尙武會長等兼務

大正八年より十二年迄宮田、伊那、中澤三ヶ村組合會議員勤務

宮 田 村

岸 本 與 君

明治六年十一月十二日を以て生る

なげうてば石にも聲はあるものを

爲すこともなく果てん悲しさ

是は君が述懐の歌なり、君が自ら語る所の經歷談概要を記すれば左の如し

「人は食ふ爲に生れたものでなく、働かん爲に生れた者とするれば、不幸四尺四寸の矮軀に生れたからとて不甲斐ない人間と笑はれんも口惜しと思ひ、明治三十二年社會教育にと志し、幻燈機を携へて縣内縣外を巡講すること茲に廿有七年、回想すれば其間に妻に死なれ子に別れ、人世の苦を嘗め盡して來たので伊那の悲運兒で有ると思ふ、(然しながら長男武雄氏は身長五尺四寸五分在郷軍人である)大正十年皇太子殿下御外遊を記念し奉り従來の幻燈機械を改良して文明の活動寫真機となし、東奔西走斃れて後止むの決心を以て盛に巡講しつつあり」と、現今君は長野縣社會囑託員にして大正三年長野縣知事より表彰せられたることあり

赤穂村大字赤穂一六三五四番地

現役陸軍三等主計正八位

宮 澤 要 二 郎 君

明治十二年六月十九日を以て生る

明治大學卒業

赤穂村會議員、赤穂商工會長、赤穂町總代等の現職に在り

又長野實業銀行赤穂支店長及株式會社六合社取締役社長等として地方實業界の爲めに盡瘁せられつゝあり先代宮澤織太郎氏は明治十五年十月赤穂村會議員に當選、同十八年迄勤務、同二十八年四月再び同村會議員に當選、同三十四年四月及大正二年同六年毎時の改選に再選し、大正十年四月迄二十餘年間引續き勤務  
其他公共の爲めに盡瘁したる所少からざりしも詳細なる資料を得る能はざりしを憾とす

赤穂村一〇六三番地

### 原 角 太 郎 君

慶應二年八月十八日を以て生る

明治十七年四月下平村戸長役場筆生拜命、同十八年赤穂村下平村聯合戸長役場筆生を命ぜられ、同二十一年迄勤務、同三十一年赤穂農事研究会創立せられ、二十五年赤穂農談會と改稱、二十八年より會報を發行、同三十四年同會幹事となり、三十八年迄勤務、地方農事改良上盡力せらる、同二十二年四月より二十三年迄長野縣收稅部伊那出張所雇勤務、同二十七年六月より三十一年迄赤穂消防組小頭勤務(同組新設當時)同三十年十月上伊那合同蠶卵原種検査所長となる、同三十一年四月南下平區長當選、爾來再三當選、大正十一年に至る迄勤務、同卅一年九月赤穂村助役就職、卅七年五月退職、同年檀徒總代當選繼續今日に至る同卅二年四月赤穂村會議員當選、爾後每次再選繼續今日に至る、同三十三年三月日本赤十字社赤穂村分區補助委員囑託同三十八年公有林野取締委員當選繼續今日に至る、同四十二年郷社大御食神社氏子總代當選、繼續今日に至る

一七六

同四十四年十月上伊那郡會議員當選、大正四年十月滿期迄勤務、大正三年上伊那郡農會議員及長野縣農會議員當選、同六年再び郡農會議員及縣農會豫備議員當選以上の外明治四十五年より大正六年迄、上伊那蠶種同業組合種繭調査委員を、大正元年上伊那郡農會より公正取引仲介所鑑定委員並に評議委員を囑託せられ、又衛生組合聯合會副長、尙武會委員、土木電燈部落有財産整理、里道管理、明治神宮献木、各種品評會審査員生糸販賣組合委員等各種公共の事務に盡瘁せる事鮮からず、其間著名なる事蹟を記すれば、明治二十三年より伊那村と村界の争ひ起り、行政裁判所迄出訴其總代として三十八年迄勤務、同二十四年より赤穂大鹿線里道改修目論見を起し、正副二線を定め、明治三十年正線を大正二年副線を改修せり、同三十五年共有山の盜伐を防止する爲め、取締條例を制定し、輪伐區を設置したり、同四十二年郷社大御食神社の神官と神社との財産經濟區別を定め、社務所の新築を計りたり、其他耕地整理畑地開墾、用水路新設等の事業に盡力せられたり

赤 穂 村

### 原 東 穂 君

東京慈惠院大學卒業

大正十四年四月赤穂村會議員當選現任中

俳道に志し東民と號し、俳八間に其名喧傳せらる

原家は地方の素封家にして、先代嚴父松三郎君は勸業家として著名なりし人にして、其の事蹟渺からず、又村會議員及郡會議員として、地方自治の爲め盡瘁せられたること渺からざるが、其詳細なる資料を得る能はざりしを遺憾とす



赤穂村

故中坪三九郎君

天保三年を以て赤穂村舊家中坪家に生る

明治維新前先代の跡を繼ぎ名主役を勤務(就任年不明)

明治七年筑摩縣第十八區第三小區(赤穂村)戸長準等外三等に任せられ同十四年退職す

此時代は地方制度の改廢の時にて村務甚多端なりしが善く私事を擲て公事に力め、村治に貢献すること尠なからざりき、殊に地租改正に付いては當村の爲め特筆すべき功績ありしと云ふ、又一面義侠の性なりしかば地力一般よりも敬慕せらる、同十三年職を辭して後病廢に起臥し居たるも、同二十六年終に六十二歳を以て逝去す後大正 年に至り村治功勞者として村長より表彰せられたり。

赤穂村一九四八番地

中川博賢君

明治九年四月十一日中箕輪村木下に生る

松本中學校を卒業し、第一高等學校醫學部卒業

明治三十四年十二月二十五日豫備役三等軍醫となる、同三十五年六月十七日叙正八位

同三十七年四月八日應召日露戰役に従軍、同年九月八日任陸軍二等軍醫、同年十一月叙從七位

同三十九年四月一日三十七八年戰役の功に依り、勳六等旭日單光章及從軍記章を授與せらる

同三十九年三月中箕輪村在郷軍人會長就職、四十二年三月迄勤務

同四十三年三月赤穂村在郷軍人會々長就職、同年十一月帝國在郷軍人會飯田支部評議員就職

同四十四年二月より帝國在郷軍人會上伊那郡聯合分會副長及赤穂村分會長たること十箇年

大正五年五月より上伊那聯合軍人分會長たること四箇年間

大正六年四月赤穂村會議員當選、同十年滿期迄勤務

大正九年六月上伊那醫師會副會長及長野縣醫師會代議員に當選

大正十一年十月縣醫師會理事當選

同十三年四月上伊那郡醫師會長當選現任中

同九年以降赤穂村立公民學校女子實業學校及赤穂小學校の校醫勤務中

赤穂村字小町屋

故福澤丑太郎君

弘化二年九月一日を以て生る

明治十五年五月一日赤穂村戸長拜命

同年五月十一日上伊那郡第六十九、七十、七十一、七十二番學區學務委員申付けらる

同十六年三月廿日准十七等取扱

同年九月一日准十六等取扱

同十七年三月十四日浦役人兼務申付けらる

同十八年二月二十三日下平村戸長兼任

同十九年十二月二十日准判任官八等年俸百八十圓下賜

明治二十二年町制施行により村長に當選、同二十六年三月滿期退職

同三十年八月再び村長に就任、同三十三年四月辭職

同三十七年八月三度村長に就職、同四十一年二月退職

明治九年以來大正元年迄前後村會議員、學務委員等の公務に従事すること十箇年、明治十五年戸長拜命以來

同四十一年二月迄前後十八ヶ年間、戸長及村長を勤務、尙消防組頭、其他公共の事務に執筆せる所尠からず

明治三十七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章を下賜せらる

同四十一年五月村長永年勤務に依り赤穂村より銀盃一組を受領せり

赤穂村

福澤岩夫君

安政六年十一月二十日を以て生る

明治十七年赤穂村勸業委員當選

同十八年長野縣勸業諮問會委員を申付けらる

同二十二年五月赤穂村會議員當選、同年上伊那全郡聯合町村會議員當選

同年上伊那郡所得調査委員に當選、爾來改選毎に再選し同三十五年迄勤続

同二十四年上伊那郡徴兵參事員に當選

同二十六年五月赤穂村長に當選、同三十一年八月迄勤務

同三十年長野農工銀行設立委員を命ぜらる

同三十一年長野農工銀行監査役に當選、同年長野縣會議員に當選

同三十二年府縣制改正に付改選の結果更に縣會議員に當選

同三十四年長野農工銀行取締役に當選、再來引續き勤務

同三十五年日本赤十字社長野支部商議員を囑託せらる

同四十一年再び赤穂村長に當選大正三年迄引續き勤務

同年日本赤十字社長野支部協賛員を囑託せらる、大正二年八月電燈村營問題に起因し、所謂赤穂騒擾事件惹

起せるに際し、嫌疑を受け九月二十七日長野刑務所に收監せられ、在監八ヶ月半に及び翌年六月十五日保釋

出獄次いで六ヶ年の刑を言ひ渡されたるも、控訴の上無罪の宣告を受けたり、爾來斷然公共の事務に關與せ

ず閑日月を送り居れり

赤穂村

福澤憲和君

大正十年四月赤穂村會議員に當選

同十四年四月再選現任中

同十年五月赤穂村學務委員に當選

同十四年五月再選現任中

福澤家は伊那地方に於ける有名なる素封家にして、世々能く社會公共の爲めに盡され徳望高く、先代嚴父三郎君は明治三十年當時の制度に依り上伊那郡會に大地主議員として當選し、又長野縣會議員として一期勤務せられ、赤穂村會議員としては明治二十八年四月當選爾來數次の改選に毎次再選勤績中大正九年六月卒かに死去せられ國郷悼惜せざるはなかりき

赤穂村

福澤泰江君

明治四年九月晦を以て生る

明治二十四年六月赤穂村收入役に選任せられ、同廿五年十一月迄勤務

同三十二年四月赤穂村會議員に當選

同四十三年四月又同村會議員に當選

大正二年四月町村改正に依る總選舉に於て再選、同六年四月滿期

明治三十二年上伊那郡農會の創立せらるゝや、赤穂村農會より代表者として選出せられ、同年四月郡農會幹事に選任せられ、同三十四年四月同會幹事長に推され同三十九年一月副會長に當選就職、大正三年四月退職に至る迄郡農會經營の局に當ること實に十六年、其間明治三十二年四月縣農會出席代表者となりてより大正四年三月迄引續き縣農會議員を兼ね、其間縣農會幹事たりしこと數年なり

明治四十四年九月長野縣會議員に當選、大正三年九月滿期退職、大正三年九月一日赤穂村長に當選、同七年

九月及十一年九月再選し以て現任に至り、村治上施設經營する所尠からず、又長野縣私設町村長會長及び全國町村長會副會長として、地方自治權の擴張及び自治の確立上劃策する所尠からず、大正十二年農會令改正に依り農會組織變更の際、上伊那郡農會議員に當選再び推されて郡農會副會長に就職現に其の職に在り大正十四年全國町村長會より歐米各國の地方自治事業視察員として派遣され、同十五年一月出發歐米各國を視察し同年九月歸朝爾來視察報告の爲め各地に奔走しつゝあり、尙明治二十一年赤穂村に於て農事研究會なるもの創立せられ、二十五年赤穂農談會と改稱、同二十八年より會報を發行し明治三十六年頃に及びたるが君は同會幹事長として經營の局に當ること數年、以て各級農會の爲めに盡瘁する事多年、地方農事改良上の功勞尠からざるを以て嘗て大日本農會頭より有功章を授與せられたることあり。

赤穂村

故小町谷虎作君

明治十二年郡區町村編制法に依り上穂村赤須村下平村を合せて新に赤穂村を組織せられたる際第一回村會議員に當選

同十三年村會規則改正に依る改選に當選

同十五年下平村分離したるに依る改選に又當選

同十八年二月赤穂村下平村聯合村役場設置せられ同五月右聯合村會議員に當選同十九年の改選に再選勤務中同二十年死去せられたり

小町谷家は伊那地方に於ける著名なる素封家にして世々能く社會公共の爲めに貢献せられ徳望高く同君は上伊那郡全郡聯合町村會議員及び長野縣會議員として勤務令名ありし人なりと云ふ  
現代息武雄君亦能く社會公共の爲めに盡瘁せられつゝあり

赤穂村

故芦部喜一郎君

明治十三年赤穂村會議員に當選

明治十五年赤穂村下平村聯合村となり改選の爲め退職

明治四十二年三月赤穂村助役に當選就職

大正三年九月退職

明治二十二年五月より赤穂村収入役に當選就職

二十四年六月退職

明治三十二年四月赤穂村會議員に當選爾來數次の改選を経て大正六年四月迄引續き勤務

大正四年十月上伊那郡會議員に當選

同八年十月退職

又嘗て赤穂郵便局長たりしことあり

現代息啓太郎君は大正八年北海道帝國大學水産専門部卒業現に赤穂公民實業學校教諭奉職中

赤穂村一四二番地

### 北原久次郎君

安政四年五月十八日を以て生る

元治元年十二月より明治四年十二月迄小出簡齋及松崎量平兩氏に就き普通學を修む

明治七年十月より九年十二月迄、下平小學校長松崎良作氏に就き和漢學及數學を修む

明治十年十一月より同十二年六月迄、石川鴻齋先生に就き東京芝區新濱町の私塾に於て漢學の講義を受く

同十六年十二月一日より酒造業を開始す、同二十五年十月より二十六年六月迄兵庫縣武庫郡御影町嘉納治右衛門氏の酒造場に於て杜氏井上儀右衛門氏に就き釀造法の實地指導を受く、同二十六年十二月より二十八年迄同縣淡路國三原郡林新七氏に就き攪拌配の實地指導を受け、四十二年十月大藏大臣より酒造検査省略の恩命を受くるに至り、同四十四年七月東京釀造試験場技師佐藤壽衛氏に就き改良釀造法の講習を受け、大正元年八月東京釀造試験場技師江田鎌次氏に就き酸馴養の釀造法講習を受け、大正九年酒造株式會社社長生社を創

立し推されて社長となり以て今日に至る、其間公務に  
 映掌したること少からず其概要を記すれば左の如し  
 明治二十二年四月二十五日赤穂村助役に當選就職  
 同二十七年四月より三十二年四月迄赤穂村會議員勤務  
 同二十七年十一月より同四十四年迄赤穂消防組部長  
 同三十年より大正十年迄赤穂中澤道路組合會議員  
 同三十六年より赤穂村學務委員就任爾來勤續二十四年  
 にして現に其の職に在り  
 同四十年上伊那酒造組合長に當選、四十二年十月迄勤  
 務  
 同四十二年四月より大正二年四月迄赤穂衛生組合長勤  
 務  
 同四十五年赤穂學校下平分教場建築委員勤務  
 同年一月長野縣酒造組合聯合會評議員當選、大正二年  
 迄勤務  
 大正四年十二月より十年六月迄赤穂小學校及公民學校  
 女子實業學校建築委員勤務  
 明治三十五年松本市及同三十八年下伊那郡に於て開會  
 せる清酒品評會に審査員を囑託せられたること三回あり

赤穂村

### 下村 與喜君

現に赤穂村収入役、青年會長、軍人分會長たり

又君は一年志願兵として陸軍歩兵少尉なり

下村家は同村の素封家にして祖父與藏君は代々名主の家に生れたる爲め二十四歳にして既に下平村名主役を勤め、明治十二年郡區町村編制法に依り新たに赤穂村組織せられたるに際し第一回村會議員として當選、同十三年村會規則改正に依り退職、同十五年下平村の分離獨立となり、下平村々會議員に當選、十八年二月赤穂村下平村聯合村役場を置かるゝにやり同年五月同聯合村會議員に當選、同十九年改選に際し再選、明治二十二年五月又兩村合併して赤穂村となり、同月赤穂村會議員に當選、二十八年四月滿期退職、同四十三年五月死去せらる、嚴父芳父君は明治三十七年四月赤穂村會議員に當選したるを初め村及區の公共事務に映掌したる所尠からざりし

赤穂村

### 北原金平君

大正十年四月赤穂村會議員に當選  
同十四年四月再選現任中

大正十三年上伊那郡聯合青年會長に推され一ヶ年勤務  
現在赤穂消防組下平部長勤務中

北原家は同村の素封家にして、其他村及區の公務に鞅  
掌せる所尠からざるも詳細なる資料を得る能はざるを  
遺憾とす

赤穂村

### 氣賀澤輪操君

明治二十六年十二月赤穂村收入役に就職同二十九年九  
月迄勤務

大正二年四月赤穂村會議員に當選六年四月迄勤務

大正十年四月再び赤穂村會議員に當選

同十四年四月迄勤務

氣賀澤家は赤穂村の素封家にして、其他公共の事務に  
鞅掌する所尠からざるも其資料を得る能はざるを遺憾  
とす

赤穂村

### 小出良作君

飯田中學校卒業

大正三年十二月赤穂村收入役に選任せられ同七年四月  
迄勤務

大正十年四月赤穂村會議員に當選

大正十四年四月再選現職中

大正十四年三月龍水電氣交渉委員當選現任中  
君前途春秋に富み地方の囑望する所となる

明治二十七八年戰役に際し軍資金献納の故を以て木杯  
を賜はりたるを始め明治三十年の三陸大海嘯罹災者救  
恤會寄附赤穂中澤間道路改修敷地寄附、赤穂小學校建  
築費寄附の故を以て賞状及木杯等を受けたること數回  
に及び又明治四十一年一府十一縣聯合共進會出品清酒  
優等に付賞状を受けたり  
大正二年二月十一日日本縣知事より初等教育普及上進に  
關する廉を以て銀牌及硯箱を賜はり表彰せられたり其  
文に曰く

表彰状

上伊那郡赤穂村

北原久次郎

多年教育ニ關スル公務ニ從テ熱心其職ニ盡シ初等教育  
ノ普及上進ニ關シ功勞尠カラズ仍テ教育基金第八條ノ  
趣旨ニ基キ明治四十年三月縣令第十四號普通教育獎勵  
規程第五條ニ依リ銀牌及硯箱一個ヲ授與シテ之ヲ表彰  
ス

大正二年二月十一日

長野縣知事正四位勳四等 依田銈次郎

赤穂村

### 清水榮之助君

明治五年二月を以て生る

小學校教員として赤穂、飯島、下伊那郡座光寺、伊那町、宮田等の各小學校に奉職したること十數年、大正十二年十二月退職す

赤穂村宮前信用購買組合の創立せらるるや、推されて組合長となり、拮据經營好成绩を挙げ優良組合として推稱せらるるに至りしが、大正十三年に至り、赤穂信用組合に合併せらる

大正十四年四月赤穂村會議員に當選、現に其職に在り

飯島村大字飯島二二九八番地

### 飯島操君

明治十八年十月二十日を以て生る

上伊那甲種農業學校卒業

明治三十九年一月飯島村役場書記就職

同四十年五月同村收入役に就職、六月退職

同四十二年三月同村聯合衛生組合副長就任

同年同村農會幹事及郡農會豫備議員當選

同四十五年二月飯島村飯島區會議員當選

大正二年四月飯島村會議員當選一期間勤務

同四年同村消防組飯島部長就任五ヶ年勤務

同六年飯島生糸信用販賣購買利用組合大成社理事就任

今日に至る

同年飯島農業倉庫組合理事に就任、今日に至る

大正九年一月株式會社上伊那銀行飯島支店長就任

同十四年九月同宮田支店長に轉勤

其他飯島村農會評議員、耕地總代等公共の事務に執筆すること尠からず

飯島村二六三番地

### 林讓君



明治十年十二月二十三日を以て生る

明治三十六年一月十日飯島區會議員當選

同三十六年一月二十三日飯島村學務委員當選、同三十九年三月十四日退職

同三十七年四月二日飯島村會議員に當選

同三十七年四月二十一日飯島區財產管理委員當選、同

三十八年四月二十九日辭職

同四十一年三月二十八日飯島村學務委員當選、同四十二年三月五日辭職

大正二年五月十九日飯島區長當選

大正四年五月十九日飯島區長再選

同五年二月一日飯島村會議員補欠當選

同六年一月二十四日飯島製糸信用販賣購買生産組合長

理事當選就職同十一年五月二十六日辭職

同六年四月二日飯島村會議員當選、同十年及十四年の

改選に再選し現職中

同六年五月十九日飯島區長再選

同七年六月一日飯島農業倉庫信用販賣組合理事當選

引續き現職にあり

同九年五月二十九日飯島區長再選、同年七月五日辭職

同九年六月二十八日飯島郵便局長任命、同十一年五月

五日辭職

大正十一年五月十日飯嶋村長就任、十五年五月六日再

選現職にあり

大正十二年五月二十日飯島村農會長に就任引續き在職

同十四年六月二十日所得調査委員に當選現任中

飯島村大字飯島二九〇五番地

堀越正義君

明治六年十二月十五日を以て生る  
 明治三十一年五月二十六日飯島村役場書記就職、同三十六年三月三十一日辞職  
 明治三十六年四月三日上伊那郡書記に任せられ、同三十八年五月二十八日辞職  
 明治三十九年四月一日上伊那郡議員當選  
 明治四十年四月一日飯島村議員當選  
 明治四十二年一月十一日飯島區會議員當選  
 明治四十三年六月三十日飯島區會議員補欠當選  
 明治四十四年七月十七日飯島村長就職、大正二年四月二十三日退職  
 明治四十四年七月十七日飯島村農會長就職、大正二年四月二十三日退職  
 明治四十四年七月十七日飯島消防組頭就職、大正二年四月二十三日退職  
 明治四十五年二月七日飯島區會議員再選  
 大正九年二月六日飯島區會議員當選  
 大正十年四月二日飯島村會議員當選  
 大正十三年二月六日飯島區會議員再選

飯島村大字本郷一七九四番地

千村與造君

嘉永元年三月二十八日を以て生る  
 明治七年四月郷平學校世話役筑摩縣より被命○同九年五月學校王管入同縣より被命○同十五年七月本郷村會議員當選○同十五年五月上伊那郡第九十一番學區學務委員長野縣より被命○同十六年三月上伊那郡教育會議員當選○同十七年七月本郷村會議員當選尋で村會議長に擧がる○同年同月上伊那郡第九十一番學區會議員當選○同年八月本郷村衛生委員長野縣より被申付○同年九月長野縣教育會議員當選○同年十二月本村聯合區域内衛生委員通信担当者當選○同十八年二月被任長野縣上伊那郡西春近村戸長取扱准十七等同年八月右戸長増俸を受く○同十九年十二月准判任官九等○同二十年十二月被轉任下伊那郡生田村河野村戸長同時に増俸の命を受く○同二十二年町制施行に付退職○同年八月より同二十五年三月迄飯島村村圖調製事務を担当す○同二十五年四月飯島村助役當選○同二十六年十二月本郷區會議員二級當選○同二十八年四月一日飯島村會議員當選○同年十月本郷區井筋開鑿臨時委員當選○同二十九年三月飯島村長當選○同年十一月飯島村長を辭す○同三十一年四月上伊那郡小野村長代理を長野縣より命せらる○同年五月上伊那郡小野村長當選○同年六月大日本武徳會長野縣地方委員を囑託せらる○同年九月上伊那郡小野村長を辭す○同年同月上伊那郡小野村長當選○同三十二年十月本郷區會議員を辭す○同三十三年二月本郷區會議員二級當選○同年四月本郷區長當選○同三十四年三月本郷區長を辭す○同年七月本郷區衛生組合長當選○同三十五年本郷區會議員當選○同三十六年五月飯島村本郷區長當選○同三十七年三月飯島村本郷區長を辭す○同四十二年六月庚子銀行飯島支店長に選任せられ勤務大正七年六月老年の故を以て右支店長を辭す○同八年一月本郷區長に當選○同十年一月右區長を辭す



飯島村大字飯島三四一八番地

### 堀越只夫君

明治十八年十一月一日を以て生る

明治三十九年一月二十七日飯島村書記に就職

同年十二月三十一日退職

大正十一年五月五日飯島郵便局長に就任引續き目下勤務中

大正十四年四月二日飯島村會議員當選現任中

飯島村大字飯島五四二番地

### 大澤傳一郎君

明治二十一年五月二十九日を以て生る

大正三年三月十七日飯島村役場書記に就職

大正六年三月三十一日退職

同七年二月二十七日飯島村収入役に就職、同年同月二十九日退職

同九年二月十一日帝國在郷軍人會飯島村分會副長に當選就職、大正十一年一月八日滿期

同十一年一月八日帝國在郷軍人會飯島村分會長に當選就職、大正十五年一月十五日滿期退職

大正九年七月二十日第一回國勢調査員を拜命

同十年四月二十九日飯島消防組部長に、現任中

同十一年六月十日産業統計調査員に、現職中

同十一年十月五日飯島村収入役に就職現任中

大正九年十月十七日長野縣消防聯合同盟會總裁より表彰を授與せらる

飯島村大字本郷五八三番地

### 織田一郎君

明治十年十一月十七日を以て生る

明治三十七年飯島村役場書記勤務

明治四十五年二月以來本郷區會議員勤績現職中(改選四回)

大正二年四月以來飯島村會議員勤績現職中(改選四回)

大正四年五月以來本郷區長當選四回勤務

大正八年十一月飯島村學務委員當選二期勤務

大正十二年二月飯島村財產管理委員當選現職中

飯島村會計検査員六期當選現職中、飯島村農會評議員三期勤績現職中(第一回國勢調査員(内閣任命))

飯島村學校建築委員、飯島村病院建築委員道路開鑿委員勤務

明治四十四年四月本郷信用販賣購買組合を起し以來今日迄理事事務現職中、尙同組合の組合長たること六回組合長現職中

大正十三年本郷耕地整理組合を起し現に組合長在職中開墾反別五十四町歩の水田なり(村區個人有土地なり)嚴父彌一郎君嘉永六年九月十四日生れ祖父幸八氏名主戸長等の後を享け青年時代より副戸長及び戸長として飯島村外二ヶ村役場に勤務すること多年其間幾多公職に當選上伊那全郡町村聯合會議員勤務せり

上山東一君

明治十五年十月二十五日を以て生る

大正二年四月飯島村會議員に當選同六年四月滿期

同十年四月再び飯島村會議員に當選

同十四年四月の改選に又再選し現に其職にあり

營業稅調查委員

上伊那酒造組合長

株式會社庚子銀行飯島支店長

其他村及區の公共事務に執掌する所尠からず

飯島村一四番地

中村兼太郎君

安政五年二月十八日を以て生る

松本中學校卒業

明治十二年三月十四日長野縣雇被命

同十四年六月十九日飯島村戸長代理筆生勤務

同十六年十月二十一日飯島村會議員當選

同十六年四月七日飯島村山野分割担当員當選

同二十二年六月十七日飯島區長代理當選

同二十三年十二月廿六日飯島區長代理當選

同廿五年三月廿八日飯島區長當選

同廿六年十二月五日飯島區會議員當選

同廿八年七月三日飯島消防組小頭及部長被命

同廿八年十月七日飯島區井筋開鑿委員當選

同廿九年四月九日飯島村助役當選

同廿九年一月廿六日大日本消防協會長野支部委員囑託

同廿九年八月十九日飯島村會議員當選

同卅一年三月廿二日飯島村會議員當選

同卅三年二月五日飯島區會議員當選

同卅三年三月十八日飯島區有財產管理委員當選

同卅三年九月廿一日飯島區長當選

同卅四年四月十三日飯島村會議員當選

同卅七年九月十七日飯島區長當選

同卅八年三月卅一日飯島消防組頭被命

同四十年四月八日飯島村長當選

同四十一年三月十一日飯島村農會長當選

同四十二年一月廿三日飯島消防組頭被命

同卅八年九月七日飯島區用水開鑿委員當選

大正十年十二月廿二日より岩間耕地整理組合長勤績

大正二年五月十一日多年村治の功勞により銀盃（銀洋

盃）壹對贈與せらる、

明治四十二年十二月二十日赤十字社々業上盡力により

菓子器壹個贈與せらる

同四十年十二月廿五日長野縣警務長より（消防）功勞證

書附與せらる

同四十二年十二月二十日日本赤十字社總裁載仁親王殿

下より木杯壹個贈與せらる

同四十一年十二月十五日警察分署長より消防組の爲努

力により木杯壹個贈與せらる

飯嶋村六九三番地

山田 織太郎君

明治六年六月二十日を以て生る

同三十三年農會令により上伊那郡農會設立せらるゝに際し、飯嶋村農會より代表者として選出せられ、同年九月上伊那郡農會評議員に當選爾來七回の改選期に毎次再選、大正六年四月迄勤務、其間明治三十四年四月より三十九年一月迄幹事を同三十九年三月より大正六年四月迄理事を兼務、大正六年四月幹事に選任せられ同十二年三月に至る迄勤務、郡農會役員たることに實に二十四年の長きに及ぶ

明治三十四年飯嶋村會議員に當選爾來數次の改選に再選現に其職にあり

明治三十八年六月飯嶋村助役就職、四十一年二月退職

明治四十一年三月飯嶋村學務委員に當選四十五年三月退職

同四十三年三月田切區長に就職四十五年三月迄勤務、同四十五年より引續き田切信用販賣購買利用組合理事勤務、大正五年四月田切區長に就職七年四月迄勤務、大正三年生糸販賣組合聯合會龍水社創立せらるゝや、専務理事に選任せられ同六年推されて社長となり爾來毎次の改選に再選今日に及ぶ其間同社經營の衝に當り百難を排し以て今日の隆運を見るに至らしめたり、大正六年三月産業組会上伊那郡部會幹事に當選就職同十三年同會副會長に當選同十五年三月再選し現に其職にあり、大正八年九月長野縣會議員に當選同十二年九月再選現に其職に在り其間縣參事會員たりしことあり、又先年伊那電氣鐵道會社監査役となり大正十四年六月取締役に當選其他日方警神社氏子總代、聖德寺檀徒總代等多年勤績せり、同十三年四月十五日産業組合中央會々頭より紺綬褒章受領、同十四年十二月大日本農會々頭より名譽賞狀を授與せらる、同月七日地方産業功勞者として攝政宮殿下に拜謁被仰付、大正十五年四月大日本蠶糸會々頭より第一種有功章を授與せらる

飯嶋村聖德寺住職

大僧都 松崎 徳定君

應二年十二月二十日を以て生る

淨土宗學校卒業

明治四十四年十二月二日伊那教區教務所長任命

大正二年十月二十七日長野教區伊那組長任命

大正四年九月三十日南信教區教務所長任命

大正六年六月一日上伊那佛教會布教師囑託

大正六年二月一日飯嶋村陋習矯弊委員囑託

大正十年四月二十六日南信教區會議議長當選

大正十二年七月一日上伊那郡飯嶋村方面委員囑託

尙同君は地方の社會改良及慈善事業の爲に毎に盡瘁せられつゝあり

飯嶋村大字本郷

### 河野正一君

明治九年十一月を以て生る  
 明治三十八年十二月村農會幹事並に評議員に當選  
 大正九年一月迄勤務此間滿十五ヶ年  
 明治四十年十二月本郷區會議員當選  
 同四十二年一月本郷區長當選、同四十四年滿期  
 明治四十二年一月聯合衛生副組合長當選  
 同四十四年四月村會議員に當選大正二年同六年同十年  
 同十四年の改選に際し再選現に其職に在り  
 明治四十四年十二月飯嶋村助役當選就職、四十五年五月辭職  
 同四十四年十二月村農會副會長當選  
 同四十五年二月本郷區會議員當選  
 同四十五年五月學務委員當選、大正五年四月滿期  
 大正四年七月本郷區長當選就任  
 同五年本郷區會議員當選  
 同五年四月學務委員當選、九年四月滿期  
 同八年九月飯嶋村長當選就任  
 同九年五月辭職

1100

同九年一月飯嶋村農會長當選、同十二年三月退職  
 同九年二月本郷區會議員當選  
 同十年二月專任學務委員當選、同十四年二月滿期  
 同十二年三月村農會總代並に評議員郡農會議員當選同  
 年四月郡農會評議員當選現に其職に在り  
 同十四年四月學務委員當選就任  
 同五年五月本郷區長當選就任  
 明治四十四年四月本郷信用販賣購買組合創設に際し推  
 されて組合長となり次で副組合長たること三ヶ年今日  
 迄十五ヶ年間理事勤務大正三年生糸販賣組合聯合會龍  
 水社創立せられて以來十一年其間副社長となる事九ヶ  
 年社長たりしこと一ヶ年  
 大正二年三月産業組合上伊那郡部會評議員當選  
 前記の外明治三十八年一月以來今日迄に統計調査委員  
 産業督勵委員、用水開鑿委員、上伊那招魂社創立委員  
 與田切川橋梁架設委員、本郷製糸合資會社監査役、龍  
 西線開鑿臨時委員、飯嶋村史編纂委員、區有財産統一  
 整理委員、教育調査會臨時委員、小學校増築乃至新築  
 臨時委員たること五回役場建築臨時委員、舊八ヶ村共  
 有地整理委員、飯嶋村道路調査臨時委員、龍水電氣調  
 査臨時委員、副業調査臨時委員、飯嶋實業補習學校建  
 築臨時委員、上伊那蠶糸改良同盟會相談役、上伊那製  
 糸同業組合評議員たること二回、飯嶋農業倉庫組合設  
 立以來監事たり

飯嶋村五八一番地

### 勳七等 小林音吉君

慶應三年四月二十三日を以て生る  
 明治二十年十二月一日陸軍看護手として歩兵第六聯隊に入營、同二十三年十一月三十日任陸軍三等看護長、  
 同日善行證書下賜、同日現役免除、明治二十七年八月三十日清役應召、二十八年六月三十日解散、明治二  
 十八年三月三日任陸軍二等看護長、同三十三年七月二十五日飯嶋村助役就職、同三十四年四月二日飯嶋村會  
 議員當選、同三十四年十月二十五日日本赤十字社飯嶋村補助分區委員囑託、同三十七年十一月四日露役應  
 召、同三十八年一月二十日任陸軍一等看護長、同四十年三月三十日召集解除、同四十二年三月二十六日飯嶋  
 村聯合衛生組合長當選認可就任、大正十四年に至る滿十六ヶ年勤績、大正二年四月一日飯嶋村會議員に當選  
 大正十四年末に至る勤績、大正四年一月二十七日飯嶋消防組頭任命、大正七年四月十三日帝國在郷軍人會飯  
 嶋分會顧問囑託、大正二年十一月十七日飯嶋村長就任、大正六年十一月十七日飯嶋村長再選、大正八年八月  
 一日村長辭職、大正七年三月二十五日日本赤十字社特別社員に推薦さる、大正八年十月八日上伊那郡會議員  
 當選就任、大正八年五月二十八日飯嶋村學務委員、大正二年飯嶋村農會長當選、大正八年八月退職、大正十  
 四年田切區長勤務  
 明治二十七八年戰役の功に依り勳八等白色桐葉章  
 明治三十七八年日露戰役の功に依り勳七等青色桐葉章及金貳百五拾圓下賜さる

1101

飯島村大字田切一七番地

### 高坂松藏君

明治十三年一月五日を以て生る  
松本中學卒業

明治三十二年十二月徴兵として近衛騎兵聯隊に入營  
明治三十三年十二月上等兵に三十四年十二月騎兵伍長に任せらる、此間上等兵候補者、憲兵志願者、一年志願兵、士官候補生の教育助手を命せられ専ら教育方面に従事し、明治三十五年十二月滿期除隊に際しては軍事教育に盡力せし廉に依り淺川聯隊長より本杯一個授與せらる

明治三十六年三月二十八日飯島村書記に就任、三十八年十二月三十日辭職、此年恰も三十七八年戰役に當りしを以て、召集、恤兵、國債募集、事務に盡瘁せられたり、明治三十九年四月一日三十七八年戰役の功に依り賞勳局總裁より銀盃一個下賜せらる

明治四十一年四月七日飯島村收入役に就任、四十三年四月三十日辭職  
明治四十二年二月地方改良の目的を以て至誠報德會を

興し、會長就任

明治四十四年四月飯島村軍人分會長就任大正二年三月退職、任期中主として分會基礎の確立並に基本財産の造成に盡力せられたり

明治四十四年十二月二十二日田切區財産管理委員就任  
大正二年十二月二十一日滿期

明治四十四年十二月二十二日入會山管理委員就任大正十三年五月三十日滿期

明治四十五年六月田切生系販賣組合理事副組合長として組合の創業に參與

大正元年十二月聖德寺檀徒總代就任引續き目下在任中  
大正二年一月村社日方磐神社氏子總代就任目下在任中

大正二年六月田切生系販賣組合理事就任、大正六年六月辭職、此間有限責任生系販賣組合聯合會龍水社の設立に參與したり

大正十二年一月十二日田切區會議員當選就任大正六年一月滿期

大正五年八月十日飯島小學校々地として杉楡立木付土地六反歩を村へ寄附せし廉に依り賞勳局總裁より銀盃一個下賜せらる

飯島村九一番地

### 小林茂十君

明治元年五月五日を以て生る

明治四十二年一月十日飯島區會議員に當選し大正十三年二月六日迄四期間繼續勤務

明治四十四年六月二十二日より本日に至る迄飯島區有財産管理委員を勤務

大正三年より飯島耕地整理組合評議員當選現職中

大正五年十月より同七年十月迄入會山管理委員勤務

大正六年四月一日より同十年三月迄飯島村會議員勤務

大正九年七月國勢調査員内閣より任命

大正十四年四月飯島村會議員當選現職中

又現在村農會評議員たり

大正十年十月十日地方農事改良上の功勞に依り大日本農會より名譽賞狀を授與せらる

大正五年四月十日飯島村部落有財産統一委員就任事業完了迄勤務

大正五年四月十七日飯島村學務委員就任大正九年十二月二十八日辭職

大正六年一月十日田切區會議員再選大正十年一月滿期  
大正九年四月二十八日田切區長就任同十一年九月二十五日滿期

此間専ら部落有財産統一後の區財産處分舊債償還並に田切第二耕地整理事業の事務を担当盡力せらる

大正九年九月第一回國勢調査員に任命せらる

大正十年一月十一日三度田切區會議員に當選就任大正十四年一月滿期

大正十年四月二日飯島村會議員當選就任

大正十一年九月二十五日飯島村助役就任目下現任中

此間奉安殿並に實業補習學校其他醫藥公營を理想とする村病院等の建築に參與貢獻せらる

大正十一年九月飯島村農會副會長就任大正十二年三月滿期

大正十二年三月再び飯島村農會副會長就任目下現任中

大正十四年三月飯島村聯合衛生組合長就任  
大正十四年四月二日飯島村會議員再選就任

飯嶋村大字田切二七九四番地

### 酒井伊之吉君



明治五年四月五日を以て生る

明治二十年四月二十六日小學校授業生免許狀を得飯島小學校勤務

同二十六年三月十五日小學校准教員免許狀を得同校勤

務

同二十九年五月六日尋常小學校正教員免許狀を得同校訓導勤務

大正七年九月十二日小學校本科正教員免許狀を得同校訓導勤務

以上通じて勤續四十年現に其職に在り

大正十年二月十一日日本縣知事より表彰せらる、其表彰狀左の通り

多年初等教育に従ひ、永く同一學校に勤續して其職に盡瘁し、教育上功績尠からず仍て大正六年一月縣令第四號普通教育獎勵規程第四條に依り、銀盃壹個並に金貳拾圓を授與して之を表彰す

其他明治四十年一月二十二日飯島實業補習學校教授囑託を兼任す此勤續二十年今日其の職に在り

飯島村三七番地

### 北原政太郎君

明治七年九月一日を以て生る

大正二年四月飯嶋村會議員當選

同六年及十年の改選期に再選し同十四年迄勤續

大正五年八月飯島村助役に當選就職

同七年五月退職

現に飯島生糸販賣組大成社専務理事たり

又嘗て恩賜財團濟生會へ金參百圓を寄附せられたり

1104

飯島村大字飯嶋二三一五番地

### 宮下武男君

明治十六年二月二十五日を以て生る

明治四十四年有志と共に百有餘町歩の飯島耕地整理組合を發起し、爾來役員たり殊に大正二年以來同地區内

飯島區有土地約五十餘町歩の開墾に専ら從事せらる

大正八年組合長となり今日に至る

大正元年以來飯島區長代理同區長飯島村會議員飯島區

會議員村農會役員部落有財産統一委員其他の公務に従事し今日に至る

現に飯島村會議員、飯島區會議員、飯島區長、村農會評議員及總代、村學務委員、林務委員、道路其他臨時委員、飯島耕地整理組合長、飯島農業倉庫信用販賣組合及飯嶋信用販賣購買利用組合大成社副組合長理事等勤務中

1105

飯嶋村大字飯嶋五八五番地

三石民重君

明治四年六月二十四日を以て生る  
 村立小學校中等科卒業  
 明治二十一年九月飯嶋村外二箇村戸長役場筆生雇を命せられ二ヶ年勤務  
 同二十四年二月飯嶋村役場書記に任命二十五年二月辭職  
 同二十七年六月飯嶋消防組公設創立に付消防手に任命同時に小頭に任命  
 同三十一年五月辭職在職五ヶ年なり  
 同三十三年三月立上伊那甲種農學校生徒獎勵委員を囑託せらる  
 同三十八年三月産業督勵委員に選任就職同四十三年四月辭職  
 同三十八年十二月村農會理事に選任、四十三年三月辭職  
 同三十九年二月飯嶋區會議員に當選二期繼續勤務、同三十九年三月飯嶋區長代理に當選四十三年二月迄二期勤務、同四十五年三月飯嶋村聯合衛生組合副長に當選大正二年四月退職  
 大正二年四月飯嶋村會議員に當選就任以來四期繼續現任中なり  
 大正六年二月陋習矯弊委員に囑託せらる、大正七年五月飯嶋村助役に當選就職、同九年七月飯嶋村長に當選就職、同十年一月辭職、同九年十月第一回國勢調査執行飯嶋村事務主任に當る  
 同九年十月飯嶋消防組頭に任命、同十五年一月辭職五ヶ年餘勤務  
 前記の外明治三十年以來町村自治機關の各種施設委員に就任したること土木建築委員、道路改修、用水路開鑿委員、耕地總代、社寺氏子總代、信徒總代等の現任中、又産業組合役員なり

飯嶋村二三〇五番地

故下平邦藏君

嘉永元年を以て生る  
 明治七年筑摩縣より五等訓導に補せらる  
 同九年同縣より七等警部に補せらる  
 同十年長野縣南方十八大區々會議員に當選  
 同十四年二月長野縣會議員に當選  
 同十六年二月上伊那全郡聯合町村會議員に當選  
 同二十二年四月上伊那郡徵兵參事員補欠當選  
 同二十三年四月飯嶋村長に當選就任  
 同二十四年四月二十九日上伊那郡會議員に當選、爾來數次の改選を経て三十九年迄勤務、其間明治三十六年十一月郡會議員に當選三十九年十二月十日辭職  
 同二十七年四月飯嶋村長に當選就職  
 同二十九年四月日清戰役の功に依り御紋章入木杯一組を下賜さる  
 同三十年四月又飯嶋村長に當選就職  
 同三十四年四月二日飯嶋村會議員當選  
 同三十八年五月三十一日飯嶋區長就職、同四十年及四十二年再選勤務  
 同三十九年二月六日飯嶋區會議員當選  
 同年四月一日明治三十七八年戰役の功に依り勳七等青色桐葉章及金五拾圓を授けらる  
 同年五月二十二日飯嶋區井堰開鑿委員勤務  
 同四十年四月二日飯嶋村會議員當選  
 同四十一年十二月飯嶋小學校々舎増築委員就任  
 同四十三年大日本農會より農事改良獎勵及實行の功績に依り名譽賞狀を授與せらる  
 同四十四五年飯嶋區舊井堰水害増築工事委員勤務  
 同四十四年四月飯嶋區に於て百五十町歩の開田の目的を以て耕地整理施行を發起出願、同年十月耕地整理組合設立認可、同年十二月組合長に就職、同四年及七年再選、同八年六月二十五日整理地區の内第二區六十餘町歩の開田成功し檢地處分終了、同年七月十八日組合長職務執行中腦溢血に罹り遂に起たず  
 前記の外消防組頭たること十年を始めとし君の生涯は公務に終り其事蹟枚舉に遑あらず

飯嶋村六五五番地

### 下平安治君

明治八年九月一日を以て生る

明治三十七年四月飯嶋村會議員に當選

同四十三年四月滿期退職

明治四十三年八月飯嶋村助役に當選就職

大正三年滿期退職

大正六年四月飯嶋村會議員に當選

同十年及十四年の改選に當選現に其職にあり

其他村及區の公共事務に執筆せる所尠からず

飯嶋村大字田切二八五九番地

### 森谷匡一君

明治二十一年十一月九日を以て生る

明治四十二年十月飯嶋村役場書記就職

同四十四年三月三十一日辭職

大正元年十二月田切信用販賣組合書記就職

同五年五月辭職

大正七年十二月十七日飯嶋村收入役就職

大正九年八月二十三日飯嶋村助役就任

同十一年八月三十日辭職

大正十年四月一日飯嶋村會議員當選

同十四年四月滿期

大正十年五月廿七日田切信用販賣組合理事に當選

大正十二年十月飯嶋村農會評議員に當選

大正十三年五月三十日田切信用販賣組合組合長に就職

現任中

飯嶋村大字田切二三五〇番地

### 森谷虎雄君

明治二十九年十一月二十三日を以て生る

大正三年三月上伊那農業學校卒業

大正八年田切青年會長

大正八年より十年迄飯嶋村役場書記勤務

大正九年より十二年迄四ヶ年飯嶋村青年會長

大正十年より十一年迄二ヶ年飯嶋村收入役勤務

大正九年より十二年迄飯嶋村農會理事

大正十年十一年第六部青年會長及上伊那郡青年會評議員

大正十二年度上伊那郡青年會副會長

大正十四年五月より田切信用販賣組合理事現任中

飯嶋村大字本郷二八八八番地

### 森谷定吉君

明治七年四月二日を以て生る

明治四十年四月一日飯嶋村書記に就職

同年十二月三十日退職

明治四十一年四月一日飯嶋村助役に就職

同四十五年三月三十一日滿期迄勤務

明治四十五年より引續き有限責任本郷信用販賣購買組

合理事に就職、尙二回選ばれて組合長に就任せり

大正二年五月十日本郷區長就職

同四年五月十八日退職

大正五年四月十日部落有財産統一委員當選

大正九年九月十三日本郷區長就職

同十一年九月十二日迄勤務



七久保村三四九〇番地

功七級等 高坂宗司君

明治八年四月十五日を以て生る

明治二十八年十二月一日現役兵として近衛歩兵第四聯隊へ入隊

同三十一年十一月三十日満期除隊、同日善行證書を附與せらる

同三十七年二月六日充員召集に依り近衛後備歩兵第三聯隊へ入隊

同年七月十二日出征爾後榆樹林子の激戦を始め遼陽、沙河、奉天附近の會戰等其他の戰闘前後十四五回に及べり

明治三十八年十月二十一日陸軍歩兵軍曹に任せらる

同三十九年一月二十日解散歸郷

同三十九年四月一日明治三十七八年戰役の功に依り、

功七級金鷄勳章並年金百圓及勳七等青色桐葉章を賜はる、同日從軍記章を授與せらる

同三十九年十一月二十五日日本赤十字社特別社員に推薦せらる

二〇

同四十年四月一日七久保村消防組頭拜命、同四十四年七月十四日辭職

同四十三年九月五日七久保村助役當選、同四十四年六月二十三日退職

同四十三年四月二十一日七久保村會議員當選、同四十四年六月二十三日退職

大正三年一月一日再び七久保村助役當選、同五年十月三十一日辭職

大正六年四月二十一日七久保村會議員當選

同九年十一月二十二日七久保村長に當選、同十二年十月三十一日辭職

同十年四月二十一日七久保村會議員に當選

同十二年三月二十七日七久保村農會長に當選現職中

同十四年三月二十四日七久保村方面委員に推薦せられ同十五年二月辭職

同十四年四月二十一日七久保村會議員に當選現職中

同十四年五月二十八日七久保村長に當選現職中

其他郡農會議員、七久保村衛生組長現職中

七久保村四九七五番地 勳八等 片桐以直君

明治十四年九月二十四日を以て生る

明治三十七八年戰役參加樺太に出征す、明治三十九年三月召集解除歸郷

明治四十年六月七久保村收入役就職、同四十三年十月辭職

大正十年五月七久保信用販賣購買組合美篤館理事に當選

大正十一年十一月七久保消防組頭に任命せられ爾來勤績現任中

大正十二年三月七久保村農會總代に當選

同年同月七久保村農會評議員に當選

同年四月上伊那郡農會豫備議員當選

大正十三年五月七久保信用販賣購買利用組合美篤館理事に再選せらる

同年同月同組合副組長當選

同年同月聯合組合龍水社七久保組合代表者に選任せらる

大正十四年五月七久保村會議員に當選現任中

大正十四年七月七久保村助役に當選就職現任中

明治三十九年四月一日明治三十七八年戰役の功に依り勳八等瑞寶章及金八拾圓を下賜、同日從軍記章授與せらる

三一

上片桐村三三四六番地

宮澤謙造君

明治十三年五月二日を以て生る  
明治二十三年三月上片桐尋常小學校卒業  
同二十四年三月上片桐尋常高等科一學年修業次で上片桐小學校補習科三學年修了  
明治三十年四月上片桐尋常小學校の雇教員勤務  
同三十四年四月十日上片桐村役場書記に就職  
同三十四年五月二十日上片桐村収入役に就職、同三十八年十月三十一日辞職  
明治四十三年五月卅一日上片桐村助役に就職、大正三年三月十二日辞職  
同四十四年四月八日上片桐村聯合衛生組合長に就職、大正三年三月退職  
大正二年三月廿九日上片桐村會議員に當選、大正六年三月廿九日再選同十年迄勤務  
大正四年十月七久保村上片桐村合併選舉區より上伊那郡會議員に當選、大正八年十月滿期迄勤務す  
大正八年一月再び上片桐村助役に就職爾來勤務其間上片桐聯合衛生組合長に就職す  
大正九年三月五日上片桐村長就職、大正十一年十一月十六日辞職  
大正九年四月瑞應寺檀徒總代當選、同十三年四月再選爾來勤務  
大正十四年三月廿九日上片桐村會議員當選現任中  
大正九年一月株式會社大島銀行監査役に當選爾來改選の都度當選勤務す  
其他村及區の公共事務に盡瘁すること尠からず

片桐村一二六番地

林 丑太郎君

元治元年十一月一日を以て生る  
下等小學全科卒業後高橋白山先生の塾に學ぶ  
明治廿二年三月町村制實施の際より大正十四年三月迄滿三十六ヶ年間引續き片桐村會議員勤務  
明治卅一年六月より同年九月迄片桐村助役勤務  
明治卅三年五月廿二日より同卅四年一月廿四日迄再び片桐村助役勤務  
明治卅四年一月廿五日より同卅六年八月迄片桐村長勤務  
明治四十四年十月五日上伊那郡會議員に當選、大正四年十月迄勤務  
其他收入役、學務委員、會計検査委員、衛生組合副長、片桐村里道改修委員、同専務委員、學務委員等永年勤務す、尙先代より引續き堤防用水の事業に卒先盡力せらる  
片桐村小和田堤防費の内へ寄附金五回、褒狀及賞品受領、其他各種、寄附に付十八回褒狀及賞品を縣知事より受領す  
明治二十九年六月巖手、宮城、青森の三縣に涉り海嘯の際寄附に付三縣知事より褒狀を受領す  
明治三十八年凶作に際し寄附に付巖手縣知事より褒狀を受領す  
大正十年十月村會議員二十ヶ年以上勤務に付上伊那郡長より表彰狀を受領、其他郡長より感謝狀、賞狀等數回受領す  
大正十四年三月村會議員退職に付同村會の決議を以て永年の功勞に對し感謝狀及記念品を贈與せられたり

片桐村六〇〇六番地  
勳八等 大場 茂雄君

明治十七年一月五日を以て生る

明治卅七年六月片桐村書記就職、明治卅七年十二月補充召集に付辞任

明治卅八年三月出征の爲め宇品港出帆

明治卅九年一月依復員歸郷

明治卅九年三月片桐村書記就職

明治卅九年四月一日三十七八年戦役の功に依り勳八等瑞寶章並に一時金七拾圓下賜、同日従軍記章下附

明治四十四年四月一日片桐村収入役就職、明治四十三年五月三十一日退職

大正四年十二月一日片桐村助役就職、大正八年十二月一日再任す

大正十年三月三十日村會議員當選、大正十四年三月廿九日満期

大正十二年三月二日片桐村消防組頭任命、大正十四年三月二十四日退職

大正十二年三月二十八日片桐村農會長就職引續き今日に至る

大正十二年四月十一日片桐村聯合衛生組合長就職引續き今日に至る

大正十二年四月二十六日片桐村長に就職現任中

片桐村

宮崎 菊次郎君

明治二十年八月より同二十二年一月迄片桐村外二ヶ村戸長役場筆生勤務

同二十八年四月片桐村會議員當選、爾來數次の改選に再選し、大正十四年三月迄引續き勤務

同三十一年十一月より同三十三年五月迄片桐村助役勤務

同三十六年九月より同三十八年十一月迄片桐村長勤務

大正四年十月より大正六年四月迄上伊那郡會議員勤務

明治三十七八年戦役の功により勳七等に叙せられ青色桐葉章を賜はる

大正十年十月七日村會議員二十年以上勤績の廉に依り上伊那郡役所より表彰せらる

同十一年二月十一日村會議員二十箇年以上勤績の廉に依り片桐村より表彰せらる

大正元年株式會社共榮館製糸場社長として其の經營に専心従事し以て今日に至る

南向村大字大草  
仁科一郎君

明治十五年二月十五日を以て生る  
 大正九年三月上伊那郡農會豫備議員に當選  
 大正十年二月補缺として上伊那郡會議員に當選  
 大正十二年三月郡制廢止に至る迄勤務  
 同十年四月南向村會議員に當選同十四年四月の改選に再選現に其職に在り  
 同十一年南向消防組頭に任命せらる  
 同年九月南向村臨時土木委員に擧げらる  
 同十二年三月南向村農會總代に當選現任中  
 同十二年南向館製糸の組合長となり爾來勤績中  
 同十三年南向村役場建築委員に擧げらる  
 同十四年三月天龍川水力電氣に關する臨時委員に擧げられ勤務中

南向村大字大草一五六一番地

石原與一郎君

明治十四年七月三十日を以て生る  
 大正三年四月廿二日南向村學務委員に當選  
 大正七年四月廿一日滿期退職  
 大正六年二月十四日南向村會議員補欠選舉に當選  
 同年二月廿六日辭職  
 大正七年四月廿七日再び南向村學務委員に當選  
 大正九年一月三日辭職す  
 大正十四年四月十一日南向村會議員總選舉に於て當選  
 現任中  
 大正十五年二月村社上宮外縣神社氏子總代となる

南向村六二四番地

米山眞一郎君

文久三年十二月十五日を以て生る  
 明治十六年七月長野縣師範學校卒業以來明治二十七年  
 三月迄縣下小學教育に従事  
 明治二十八年四月南向村助役就任  
 明治三十年八月上伊那郡南向村長に就任同三十二年十  
 月辭職  
 明治三十五年十二月上伊那郡會議員補欠當選  
 明治三十六年十月再び上伊那郡會議員に當選  
 同十一月郡參事會員當選同四十年十月滿期退職  
 大正六年四月南向村會議員に當選  
 大正十四年四月再び南向村會議員に當選  
 其他村及區の公共事務に執掌する所尠からず

南向村大字大草四八六番地

寺平幾次郎君

明治八年十月十七日を以て生る  
 明治二十三年四月より明治二十九年三月迄南向小學校授業生勤務  
 明治三十年四月より同年十二月迄片桐小學校尋常科准指導勤務  
 明治三十一年二月試験檢定により小學校本科准指導の免許状を受く  
 明治三十一年四月より同四十年三月迄南向尋常高等小學校准指導奉職  
 明治四十年七月より同四十一年四月二十六日迄南向村收入役勤務  
 明治四十五年一月より大正六年一月迄南向信用購買組合理事勤務  
 明治四十五年五月より大正六年四月迄片桐信用販賣組合理事勤務  
 大正三年より大正六年迄南向消防第三部長勤務  
 大正五年十二月より同十一年四月迄製糸組合南向館理事勤務  
 大正十一年五月より大正十五年四月迄同上監事勤務  
 大正十一年四月十日南向村會議員に當選現任中  
 大正十二年二月六日南向村助役に就任現任中  
 大正十三年九月南向村聯合衛生組合長に當選  
 大正十四年八月十七日南向村方面委員を囑託せらる

南向村大字大草七一七八番地

吉川四郎君

明治二十六年三月二十七日を以て生る  
 明治四十三年三月九日南向村役場書記となり同四十四年四月三十日辭職す  
 大正十年十月第一回國勢調査委員に任命  
 大正十四年四月十一日南向村會議員總選舉に於て當選現任中

南向村甲七二八番地

北島文吉君

嘉永六年七月二日を以て生る  
 明治十九年二月父君の後を受け戸主となり農蠶の業に従事す  
 明治三十八年南向村葛嶋渡場産業督勵委員に選任せられ大正九年迄十六ケ年間勤績  
 明治三十九年南向信用組合設立以來貯金係りとして多年勤務、大正三年三月産業組合上伊那郡部會長より表彰せらる  
 明治四十一年南向村渡場原衛生組合長に就職爾來十九ケ年間勤績現任中  
 大正元年葛館製糸場渡場地方委員に選任せられ爾來勤績現任中  
 大正十四年南向村主要食糧農産物改良増殖督勵委員を囑託せられ現任中

伊那村二二五一番地

### 小木曾 廣治郎君

明治十九年二月十日を以て生る  
 明治四十一年四月十六日伊那村書記に選任せられ、明治四十三年四月辭職す  
 明治四十年十一月十二日伊那村消防組第二部小頭を命ぜらる、明治四十三年二月十六日辭職す  
 大正四年四月五日伊那村消防組第二部長を命ぜらる、大正七年九月六日辭職す  
 大正九年四月伊那村農會評議員當選  
 大正十年三月二十七日伊那村々會議員に當選、大正十四年三月二十七日滿期退職す  
 大正十一年十二月十九日新農會創立委員を囑託せらる  
 大正十二年伊那村栗林耕地總代に當選す  
 大正十二年三月十日伊那村農會總代に當選す  
 大正十二年伊那村農會理事に選任せらる  
 大正十三年二月十七日伊那村學務委員に當選す

伊那村

### 伊藤 滿太郎君

明治三十年より同三十三年迄同村高鳥谷神社氏子總代勤務  
 同三十年より同四十一年迄十一ヶ年間同村諏訪神社氏子總代勤務同四十年右氏子總代勤務中諏訪神社八幡社、神明社、三社合併の議起り終に成立合併を見るに至り伊那森神社と稱す、又推されて氏子總代となり大正八年迄十二ヶ年間勤務  
 明治三十一年伊那耕地總代勤務  
 同三十四年伊那村消防組第一部長任命同三十九年迄六ヶ年勤務  
 同三十七年より三十八年迄伊那村學務委員勤務  
 同四十年三月伊那村會議員に當選大正二年三月滿期退職す  
 同四十二年三月伊那村聯合衛生組合副組合長となり大正二年六月迄五ヶ年間勤務  
 大正三年伊那村助役に就職同四年一月退職  
 同七年九月伊那村學務委員に當選大正八年三月退職  
 同九年三月伊那村消防組頭拜命同十一年三月辭職  
 同十三年伊那耕地總代勤務  
 同十五年高鳥谷神社氏子總代當選現任中

伊那村一九七九番地

### 片桐 一正君

明治二十五年四月二十日を以て生る  
 陸軍騎兵伍長  
 伊那村消防組第二部々長  
 伊那村々會議員現職中

伊那村一四九番地

瀧澤兼藏君

明治四年五月四日を以て生る

栗林耕地總代

栖林寺檀徒總代

栗林神社氏子總代

栗林衛生組合長

伊那村第二部消防組小頭

伊那村會議員當選す

伊那村二七三四番地

瀧澤熊一君

明治六年六月一日を以て生る

大正二年三月二十七日伊那村會議員當選

大正五年二月二十一日伊那村役場會計検査立會人當選

伊那村三〇四〇番地

矢澤長五郎君

明治廿三年十一月十八日を以て生る

明治四十二年九月伊那村役場書記に選任せらる

明治四十三年十二月歩兵第六十聯隊へ入營

大正三年八月又伊那村役場書記に選任せらる

大正四年二月在郷軍人會伊那村分會副長となる

大正五年一月伊那村分會長となる

大正四年九月任歩兵伍長

大正七年九月消防組部長任命

大正十二年三月村農會總代當選

大正十三年三月軍人會分會副長

大正十四年三月伊那村會議員當選現職中

大正十五年一月信用組合理事當選

明治四十五年五月第十五師團特命檢閲使伏見宮殿下より模範兵として表彰され賞詞を賜はる

伊那村二〇〇二番地

福澤倉治郎君

明治十二年二月二十一日を以て生る

明治卅四年四月十一日伊那村消防組小頭を命せらる

同年十一月二日伊那村書記に選任せられ明治卅六年四月六日依願解職

明治卅六年一月十二日伊那村消防組第二部長を命せられ同四十年二月三日依願解職

明治四十三年一月十八日伊那村収入役に選任せられ大正元年六月三十日依願解職

大正三年八月十七日伊那村消防組第二部長を命せられ大正四年四月五日依願解職

大正六年耕地總代に當選

大正九年一月伊那村信用組合理事に當選、同年一月耕地總代に當選

大正九年二月伊那村農會副會長に當選し大正十二年三月滿期退職

大正九年七月二十日國勢調査員を命せらる

大正十年六月十日産業統計調査員を囑託せらる

大正十一年三月二十二日伊那村消防組頭を命せられ大正十三年十月二十日辭職

大正十一年六月八日伊那村助役に當選し大正十三年三月三十一日辭職

大正十二年二月伊那村農會總代に當選就任中

大正十四年三月廿七日伊那村會議員に當選就任中、大正十二年一月伊那村信用購買組合理事に當選就任中

大正十五年四月再び伊那村助役に當選、同年五月伊那村長に當選現任中

明治三十七年十二月廿六日長野縣警察部長より消防組部長勤務に付功勞證書を授與せらる

伊那村一四三番地

小池伊三郎君

慶應元年九月十六日を以て生る

栗林耕地總代

栗林神社氏子總代

栢林寺檀徒總代

伊那村會議員

宮田村外二ヶ村道路組合理事

伊那村信用購買組合理事

伊那村信用販賣組合理事

伊那村信用販賣組合理事



伊那村七五番地

### 村上文彌君

文久二年四月二十日を以て生る  
 明治二十年一月廿六日長野縣巡查拜命月俸六圓給與同  
 年五月廿日月俸七圓同廿一年三月廿二日巡查依願免職  
 同廿一年四月二日中澤村東伊那村戸長役場筆生拜命月  
 給金參圓同廿二年三月解職  
 同廿二年四月東伊那村會二級議員當選同廿五年半數改  
 選に付抽籤退職  
 同廿五年五月村學務委員に當選同年九月退職  
 同年九月村役場書記に選任せられ同廿七年五月辭職  
 同廿八年三月二級村會議員に當選同卅一年三月退職  
 同年四月常設衛生委員に當選同卅三年八月辭任  
 同卅三年村名改稱請願委員に選任せられ時の村會議員  
 下島幸太郎氏外數氏と共に奔走請願の結果同卅一年六  
 月十七日付長野縣告示第百七十三號を以て東伊那村を  
 伊那村と改稱せらるるに至る  
 同卅七年三月村役場書記に選任同卅九年三月辭職  
 同四十二年二月村農會會長當選同四十四年一月辭任

二二六

伊那村一三二番地

### 小池利壽君

明治七年十二月六日を以て生る  
 栗林耕地總代  
 酒林寺檀徒總代  
 栗林神社氏子總代  
 伊那村會議員當選す  
 伊那村道路委員に當選す

伊那村二二一七番地

### 湯澤藤十郎君

元治元年八月二十七日を以て生る  
 高遠町十族海野幸成先生塾に入門漢籍を修む  
 明治十七年六月上伊那郡東伊那村戸長役場筆生被申付  
 (上伊那郡役所)  
 明治十八年七月上伊那郡中澤村東伊那村戸長役場筆生  
 被申付(上伊那郡役所)  
 同二十一年十一月上伊那郡中澤村、東伊那村産馬組合  
 世話役當選  
 同二十一年四月東伊那村兵役優待會幹事當選同三十六  
 年滿期退任  
 同二十二年二月村立東伊那小學校學務委員當選  
 同二十二年九月特別地價修正請願委員當選  
 同二十二年五月東伊那村收入役就職同廿三年七月辭職  
 同二十二年十一月上伊那郡全部聯合町村會議員當選  
 同二十三年二月東伊那村青年會會長當選  
 同二十五年三月東伊那村一級選出村會議員當選  
 同二十六年二月東伊那同志會會長當選

同二十六年三月東伊那村常設衛生委員當選  
 同二十六年五月上伊那郡所得稅調查委員當選  
 同二十八年十二月東伊那村長就職同三十二年一月辭職  
 同三十一年一月東伊那消防組頭任命同卅五年一月辭任  
 同三十二年十月上伊那郡會議員當選  
 同三十四年二月上伊那郡參事會補充員當選  
 同三十三年一月伊那村衛生組合長當選  
 同三十三年八月伊那村農會評議員當選  
 大正十四年八月國勢調查員任命せらる(内閣)  
 明治四十年四月東伊那尋常高等小學校々舎敷地買入費  
 の内へ金壹百五拾圓寄附せし廉により木杯一組長野縣  
 より下賜せらる

二二七

伊那村三七一〇番地

澁谷慶太郎君

明治十一年一月三日を以て生る

明治三十四年八月本村書記に選任せられ

同三十五年六月依願解職

明治三十六年四月伊那消防組小頭に任命

同三十九年十月第三部長任命

同四十年一月組頭代理を命せられ同年十二月依願解職

明治四十二年五月本村収入役に選任せられ同年九月依願解職

大正二年三月伊那村會議員に當選同六年三月再選同十年三月滿期退職

大正十一年五月伊那村農會長に當選大正十二年二月退職

大正七年八月伊那村助役に當選就職中同十一年伊那村長に當選大正十五年四月滿期退職

伊那村二七番地

下島定治郎君

明治元年十二月一日を以て生る

明治二十八年伊那村消防組組織せられ同二十九年小頭拜命

明治三十三年四月伊那村消防組第一部長を命せられ同三十四年組頭代理を命せらる

明治三十三年九月伊那村役場書記に就職三十五年三月依願解職

明治四十三年三月伊那村々會議員に當選大正二年三月滿期退職

明治四十三年十月伊那村部落有財産統一整理委員當選

大正二年三月伊那村農會長當選就職並に郡農會代議員當選就職大正六年三月滿期

大正二年伊那村収入役に選任せられ就職大正四年八月依願解職

大正四年十二月伊那村造林委員に當選就職

大正六年四月村農會長再選就職同七年三月辭職

大正八年伊那村信用組合監事に當選十一年再選現職中

大正十二年三月村農會總代に當選現職中

大正十三年四月伊那村助役に當選就職同十五年四月辭職

東春近村四〇二番地

飯島國俊君

萬延元年七月十九日を以て生る

幼名國太郎と稱し明治十六年父飯嶋與平退隱跡相續時に年二十三歳なり明治二十五年十二月國俊と改名せり  
明治二十年下殿島區總代に撰舉せられ滿一ヶ年勤務、明治二十四年十月東春近村收入役に就任同二十六年九  
月辭職、明治二十七年五月下殿嶋區會議員に當選同卅八年四月滿期退職、明治廿八年八月東春近村助役に就  
任同卅一年一月辭職、明治廿八年四月東春近村會議員に當選同卅四年三月滿期退職

明治卅一年五月上伊那生糸合資會社を創立し製糸業を營み理事組合長に撰ばれ明治卅八年組合製糸に組織變  
更に付退職、明治卅五年五月東春近村消防組頭に就任同卅七年一月辭職

明治卅六年一月上伊那郡農會評議員に當選同卅七年十月退職其間幹事を兼ね

明治卅六年十月上伊那郡會議員當選同四十年九月滿期退職

明治卅八年五月上伊那信用販賣組合を設立し推されて理事組合長となる組合製糸を設立したるは日本全國中  
の嚆矢にして其後漸次各地に設立あり引續き理事組合長勤續大正十二年七月病氣の爲辭職

明治四十三年五月東春近衛生組合長に就任同四十四年一月辭職、大正三年一月伊那生糸販賣組合聯合會龍水  
社を創立推されて理事組合長となり大正十三年七月辭職、大正七年四月長野縣生糸同業組合聯合會代表者に  
當選大正十年三月滿期退職、大正十一年七月三十一日上伊那生絲販賣購買利用組合顧問に推薦せらる、大正十  
三年十一月上伊那生糸販賣組合聯合會龍水社顧問に選ばる

大正十三年三月十五日産業組合上伊那部會より表彰せらる、大正十三年三月二十三日産業組合中央會長野支  
會より表彰せらる

東春近村三六六一番地

飯島嘉平治君

明治十八年三月三日を以て生る

明治四十年四月より同四十二年四月迄東春近村役場書記勤務

大正六年より下殿島耕地整理組合副組合長會計掛勤務

同年一月十日より同十年一月九日迄本村學務委員

大正七年より春近養蠶組合長として現職中

大正九年村會計検査委員に當選

大正九年二月東春近村會議員に當選同十三年滿期の處再選せられ現任中

大正十年より同十二年に至る本村林業委員

大正十年八月より保證責任上伊那信用販賣購買利用組合專務理事に當選現職中

大正十三年より伊那生糸信用販賣組合聯合會龍水社監事に當選現任中

大正十四年本村會計検査委員に當選

大正十四年十月伊那病院理事に當選現職中

東 春 近 村

飯 島 八 九 郎 君

大正五年上殿島區長勤務

大正四年九月より六年九月迄財務調査委員勤務

大正十三年二月東春近村會議員に當選現職中

東 春 近 村

飯 島 幾 太 郎 君

君は夙に農事の改良に志し、明治二十七八年の交、卒先して帝國農家一致協會に加盟し、多數の同志を誘導して加盟せしめ、同三十年の交同協會上伊那中央部落會なるものを設立し、推されて會長となり、盡力數年其功に依り、表彰せられたること數次。明治三十三年農會令に依り、上伊那郡農會の設立せらるゝや、東春近村農會より郡農會出席代表者として選任せられ、同年九月上伊那郡農會評議員に當選、同三十四年四月及三十五年十月再選、同三十六年一月辭職、其間三十四年四月より幹事を兼務、又三十八年十二月迄縣農會出席代表者として、縣及郡農會草創の際施設經營上盡力する所尠からざりし。

其後農村の根本改良に志し、一報徳宣傳に力むこと多年、本縣下各郡は勿論各府縣に及び、君の指導に依り報徳結社をなしたるもの尠からずと云ふ。

居村の公共事務に従事したる最近のものを擧ぐれば左の如し

大正五年二月東春近村會議員に當選同九年二月迄勤務

同五年四月同村學務委員に就職同九年四月迄勤務

同六年上殿島區長代理勤務

同六年十二月より同十四年二月迄村是調査委員勤務同十三年一月より同十四年二月迄同村誌調査委員勤務等  
其他村及區の公共事務に盡瘁したること尠からざれ共資料を得ざるを憾とす

東春近村 榛原

勤七等 伊藤 奎太郎君

明治元年七月二十四日を以て生る

明治二十一年榛原區總代當選就任一ヶ年

明治廿八年五月四日榛原區長當選同廿九年四月廿五日辭職

明治廿九年四月廿九日東春近村役場書記に選任せられ同年十月廿七日同村収入役に當選同卅一年二月一日辭職

職

明治卅四年四月九日村學務委員當選同卅六年三月廿七日辭職

明治卅六年三月廿八日東春近村助役當選就職同卅七年五月十四日同村長當選同卅八年七月十五日辭職

明治卅一年三月東春近村消防組榛原部長任命同卅八年七月廿二日辭職

明治四十年十月上伊那郡會議員當選同四十四年十月滿期退職

明治四十五年四月廿四日村學務委員當選大正五年四月滿期退職

大正二年榛原區長當選就任一ヶ年

明治卅九年十一月十日東春近消防組頭任命大正五年三月六日辭職

明治四十年四月一日明治三十七八年戰役の功に依り勳七等青色桐葉章を賜ふ

明治四十一年二月本縣警察部長より功勞證を受く同四十一年十月六日大日本消防協會より賞狀を受く、大正三年三月上伊那消防同盟會より特別功勞證を受く大正四年四月村消防組より記念品を受く

東春近村二二七〇番地

伊藤 秀治郎君

明治六年十月三日を以て生る

明治卅三年三月より卅四年五月迄東春近村役場書記勤務

同卅七年四月より卅九年五月迄同村消防組上殿嶋部長勤務

同卅九年四月より同四十年三月迄同村収入役勤務

同四十一年三月より四十四年二月迄上伊那郡農會議員勤務

同四十二年三月より四十五年三月迄同村土木委員勤務

同四十三年一月より四十二年一月迄同村上殿島區長代理者勤務

同四十四年一月より四十四年一月迄同村同區長勤務

同四十五年二月より大正九年二月迄同村々會議員二期勤務

大正七年四月より大正十年四月迄同村林業委員勤務

大正八年三月より大正九年三月迄同村助役勤務

大正十三年三月村農會總代に當選現任中

大正十三年二月村學務委員當選現任中

大正十三年二月村學務委員當選現任中

東春近村三八八番地

伊藤文雄君

明治二年十月六日を以て生る

明治十九年七月一日東春近村富縣村聯合戸長役場筆生拜命

同廿二年四月市町村制實施に付解職

明治廿二年四月東春近村役場書記に選任せら、同卅二年五月辭職

明治卅二年八月伊那稅務署雇拜命、同卅三年六月辭職

明治卅三年六月東春近村役場書記に選任せらる、同四十四年二月辭職

大正四年六月より大正九年十一月三十日迄宮田村南向村小野村伊那富村等に引續き役場書記勤務

大正十年七月一日第一回國勢調査記念章授與せらる(賞勳局)

明治三十年三月區會條例發行田原區區會議員當選、同卅四年二月滿期退職

明治三十九年四月一日明治三十七八年戰役の功により銀盃一個を賜ふ(賞勳局)

東春近村一七七四番地

井上彦太郎君

明治五年七月二十四日を以て生る

明治三十年七月警視廳巡查拜命

明治三十六年五月依願免職となる

同年五月退職賜金五拾圓下賜せらる

大正十三年二月十五日東春近村會議員に當選現職中

東 春 近 村  
濱 島 傳 衛 君

村内屈指の素封家にして弘化三年傳右衛門氏の長男に生る、同村田中氏の女を娶り子女八人を擧げ長女は伊那町野平底澤家に嫁し長男富次郎氏家を嗣ぎたれども早世し三男傳十郎氏分家末子彦十氏札幌農學士たり嫡孫現代傳吾氏は東北大學卒業、

君資性剛健にして家政を整理し復能く公共事務に努め徳望頗る高かりし略歴左の如し

明治十四年四月二十日殿島學校組合學務委員(郡役所辞令)

同年五月十日東春近村會議員當選就任

明治十七年二月二日東春近村戸長役場筆生被申付(郡役所)

同年九月二十七日改正同上

明治十八年三月十二日東春近村富縣村聯合戸長役場筆生拜命同年十月三十一日依願退職

明治二十一年二月聯合兩村勸業委員當選就任

明治二十二年四月町村制實施に當り東春近村長に當選同年五月十五日認可就職

明治二十四年四月二十九日上伊那郡會議員に當選就任

明治二十五年三月東春近村會議員(一級)當選就任

明治三十年縣費事業殿島堤防石腹付工事(二百五十間)許可に付工事主任に選任せられ多大の努力と失費とを犠牲とし其事業を完成せられたり

其他常設土木委員、學務委員、衛生委員等公共の事務に執掌したること尠からず、又各種義捐金等には衆に先じ出資するを常とせり

東 春 近 村 一 五 五 番 地

勳七等功七級 戸 田 律 治 郎 君

明治十一年七月二十三日を以て生る

明治三十七年三月十二日動員に依り召集せられ同年四月二十三日出征同三十九年三月四日復員に依り召集解除歸郷

明治三十九年四月一日明治三十七、八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章並年金百圓及勳七等青色桐葉章を下賜せらる

明治四十二年三月三十日村役場書記に選任せられ同四十三年四月九日辭職

明治四十四年五月十三日東春近村土木委員當選同四十五年五月五日辭職

明治四十四年三月十日東春近村在郷軍人分會副會長當選大正元年在郷軍人分會長當選同六年四月三日退職

大正二年四月四日東春近村收入役就職同六年四月三日滿期退職

大正六年四月六日消防組部長任命同八年滿期

大正七年八月五日東春近村衛生委員當選同十年八月四日滿期退職

大正八年三月二十五日東春近村聯合衛生組長當選同十二年三月二十四日滿期

大正十一年一月十日區長代理同十二年一月十日區長及總代當選同十三年一月九日滿期

大正十一年二月二十四日東春近村助役に就職同十二年一月三十日家事故障の爲め退職

大正十三年二月東春近村會議員當選現任中

東 春 近 村

鳥 原 秀 三 君

明治三十四年一月東春近村役場書記に選任せられ同三十五年五月迄勤務

明治四十年四月東春近村収入役に選任せられ同四十一年三月迄勤務

同四十三年二月東春近消防組部長に任命せられ同四十五年三月迄勤務

同四十四年四月東春近村會議員に當選大正四年三月満期退職

大正十一年東春近消防組頭に任命せられ爾來現任中

大正十二年四月伊那町古町公園に於て消防組大巡檢に際し總指揮官を命ぜらる

大正十三年十月十七日長野縣消防同盟會聯合會より表彰せらる

東 春 近 村 二 一 七 番 地

唐 澤 所 平 治 君

安政二年十一月十日を以て生る

明治二十年東春近村中殿島區總代勤務

明治二十二年三月三十一日東春近村會議員當選同二十八年満期退職

明治二十七年區會條例發布同年より明治四十一年迄三期間連續區會議員勤務

明治二十八年三月より同三十一年三月迄村土木委員勤務

明治三十一年村勸業委員就任(助役就任と共に辭職)

明治三十一年九月二十七日東春近村助役に就任同三十三年三月二十九日退職

明治四十五年二月十五日再び村會議員當選

大正五年二月十五日再選大正九年満期迄勤務

明治三十四年十二月九日東春近村長當選就任同三十六年二月五日辭職

明治四十五年三月二十五日村土木委員就任大正四年満期退職

明治四十一年より同四十三年迄消防組中殿嶋部長勤務



東春近村三二六番地

### 唐澤榮太郎君

慶應元年二月八日を以て生る  
 明治十八年七月殿嶋學校事務掛を拜命す  
 同二十七年五月區會議員に當選  
 同二十七年五月東春近村下殿島區長に當選  
 同二十八年東春近村學務委員に當選  
 同三十年三月東春近村下殿島區長に再び當選  
 同三十年四月村農會評議員に當選  
 同三十年九月名譽職助役に當選  
 同三十年九月村農會長に當選  
 同三十一年三月村會議員に當選  
 同三十一年九月東春近村長に當選  
 同三十二年四月東春近消防組頭を拜命す  
 同三十三年十月村農會評議員に再選同年村農會特待員に推選せらる  
 同三十九年二月村農會名譽會員に推選せらる  
 同四十三年三月土木委員に當選  
 同四十四年十月上伊那郡會議員に當選し即日辭任

二四二

同四十五年四月學務委員に當選  
 同四十五年六月上伊那郡信用販賣組合理事に當選  
 大正四年七月上伊那郡信用販賣組合理事に再選  
 大正四年十月上伊那郡會議員に當選同八年滿期  
 大正五年二月東春近村會議員に當選  
 大正六年十二月上伊那消防同盟會名譽會員に推選せらる  
 大正七年三月村建築委員に當選  
 同七年四月村林業委員に當選  
 同七年七月上伊那郡信用販賣組合理事に當選  
 大正十三年一月村誌調査委員に當選

東春近村二〇八一番地

### 田中辰藏君

明治元年七月十一日を以て生る  
 明治三十年四月一日東春近村農會評議員當選  
 同年四月四日同村役場書記就職  
 同三十一年二月二日同村收入役に就職三十二年十二月十二日辭職  
 同三十二年三月十三日村農會評議員再選村農會幹事を兼任す  
 同三十三年九月三十日農會會則改正により退職同年同月又評議員となる  
 同三十五年十二月二十日村農會評議員再選  
 同三十七年五月二十八日土木委員當選三十八年九月一日辭任  
 同三十八年一月五日村農會評議員再選  
 同三十八年十二月十五日農會法改正により評議員退職  
 同月二十六日又村農會評議員當選同四十一年三月二十一日滿期退職  
 同四十年四月村會議員當選同四十年十二月病氣辭職

二四三

同四十一年三月二十二日村農會長となる、同四十二年二月辭職  
 同四十年四月二十九日衛生委員となる、同四十二年二月廿二日辭職  
 同四十二年一月廿九日上殿島區長當選同四十三年一月二十八日滿期退職  
 同四十四年二月村農會副會長となる大正三年二月二十七日辭職  
 同四十四年三月二十三日東春近村助役となる、明治四十四年十二月三日家事上都合により辭職  
 大正三年二月二十七日村農會評議員となる  
 大正四年二月村農會副會長となる  
 大正五年三月十五日東春近村長當選、大正九年三月十四日滿期退職  
 大正六年二月二十六日村農會副會長滿期再選大正九年二月二十三日滿期の處再選、同年四月二十一日家事上不得止辭職  
 大正十年四月一日林業委員となる、大正十三年三月三十一日辭任大正十年四月四日村農會長となる、同十二年三月三十日滿期退職

東春近村三七七番地

阿部龍彌君

元治元年二月五日を以て生る  
 明治二十四年田原耕地藤口組總代當選  
 同年同上社事係當選  
 同年同上清潔委員當選  
 明治二十五年田原耕地總代當選  
 同年上伊那公會世話役勤務  
 明治二十六年三月田原區地目總代當選  
 明治二十七年田原區々會議員  
 同年田原區々長勤務  
 同二十七年田原區地元總代(天龍川堤防築設に付)  
 同二十八年東春近村常設衛生委員  
 同三十一年東春近村々會議員に當選就職  
 同三十一年同村消防小頭  
 同三十一年同村消防田原部長  
 同三十二年森林常設委員  
 同三十三年村農會評議委員  
 同三十七年小學校舍建築委員

同三十八年東春近村助役就職  
 同三十九年日本赤十字社長野支部上伊那委員部分區委員

同三十九年東春近村長に當選就職  
 同四十年小學校舍建築委員  
 同四十一年大日本蠶糸會信濃支部上伊那委員部委員  
 同四十三年十二月部落有財產統一委員當選  
 明治三十八年村學務委員勤務  
 大正元年東春近村臨時土木委員勤務  
 大正五年部落有財產整理委員  
 大正五年東春近村々會議員當選  
 大正七年小學校舍建築委員勤務

東春近村三二九番地

酒井秀治郎君

明治九年五月三日を以て生る  
 明治二十六年六月十二日より同二十九年四月七日迄東春近小學校准訓導勤務  
 同三十一年八月廿五日より同卅三年二月十二日迄東春近村書記勤務  
 同卅三年三月六日より同卅五年十月廿九日迄上伊那郡書記勤務(明治卅五年二月十三日普通文官試驗合格)  
 同卅三年七月廿五日より同卅五年七月三十日迄上伊那郡農會書記囑託  
 同卅六年五月一日東春近村下殿島區會議員當選同年十一月十六日辭職  
 同卅七年三月卅一日東春近村會議員當選同四十二年三月三十日滿期退職  
 同卅八年三月十七日東春近村農會長當選同廿五日辭職  
 同卅八年五月廿六日東春近村學務委員同四十一年五月廿五日滿期退職  
 同卅九年五月一日下殿島區會議員同四十一年七月十一

日區會廢止に付退職

同四十年一月二十二日東春近村下殿島區長同四十一年四月六日辭職  
 同卅九年三月八日東春近村消防組下殿島部長同四十三年二月廿八日辭職  
 同四十三年三月卅一日東春近村會議員當選同年四月六日辭任  
 同四十五年四月六日東春近村助役就職大正五年四月五日滿期退職  
 同四十五年四月八日東春近村聯合衛生組合長大正五年四月七日滿期退職  
 大正九年三月九日東春近村農會副會長大正十二年三月三十日退職  
 大正九年三月十五日東春近村長就職大正十三年三月十五日再選現に在職中  
 大正十二年四月一日東春近村農會長當選現に在職中  
 同年同月同日上伊那郡農會議員當選現に在職中  
 大正十二年八月一日上伊那信用販賣購買利用組合理事當選同十三年八月一日同上理事再選組合長となり現に在職中

東春近村二五三五番地  
正七位 下 平 末 藏 君

明治二十年十月十四日を以て生る

(長野縣師範學校卒業)文部省より中等學校修身倫理教育科教員免許狀受領

明治二十四年三月任長野縣上伊那郡立高等小學校訓導

同二十六年七月兼任同郡手良尋常小學校訓導兼校長

同二十九年三月任同郡東春近尋常高等小學校訓導兼校長

同三十一年三月任長野縣師範學校教諭兼舍監

同三十二年四月任小縣郡上田女子尋常高等小學校訓導兼校長

同三十四年四月任同郡上田高等女學校校長兼教諭(奏任待遇)

同三十七年七月叙從七位

同三十九年九月任群馬縣師範學校教諭兼附屬小學校主事(奏任待遇)

同四十五年三月叙正七位

同四十五年四月任埼玉縣北足立郡大宮尋常高等小學校訓導兼校長

大正四年十一月大禮記念章を授與せらる

同五年四月任長野縣上伊那郡東春近尋常高等小學校訓導兼校長兼東春近農工補習學校校長

同九年四月任上伊那農業學校教諭

同十四年六月高等官七等を以て待遇せらる

在職中教育費等寄附の爲其賞として長野縣及群馬縣より木杯を受くること五回

東春近村二一七三番地

下 平 繁 一 郎 君

明治十四年二月十五日を以て生る

上伊那簡易農學校卒業

明治三十二年十月より三十三年五月迄松本稅務管理局雇拜命伊那稅務署勤務

明治三十四年十月より三十六年三月迄東春近村書記勤務

明治三十七年十一月より三十八年十一月迄長野縣立上伊那甲種農業學校書記勤務

明治三十九年四月名和昆虫研究所第十八回全國害虫驅除講習會終了

明治四十一年四月より四十二年五月迄東春近村收入役勤務

大正九年六月より大正十四年一月迄同村學務委員勤務

大正九年八月より十一年一月迄東春近村助役勤務

大正十一年十月より十三年四月迄東春近村消防組上殿島部長勤務

大正十二年東春近村上殿島區長代理者勤務

大正十三年東春近村上殿島區長勤務

大正十四年二月再び東春近村助役に就任現職にあり

明治三十七年五月長野縣知事より郡農會第三回稻立毛品評會二等賞授與さる

大正十年長野縣知事より郡農會第一回稻多收穫品評會二等賞授與さる

大正十三年十月長野縣聯合消防同盟會總裁梅谷光貞より表彰狀及徽章授與さる

富 縣 村

井 上 銀 十 郎 君

嘉永元年五月廿五日を以て生る

井上家の祖先は六孫王經基の孫鎮守府將軍河内守頼信の三男井上頼秀の後裔井上掃部に出づと云ふ掃部地侍として北林城に住し其子重弘民籍に下り子孫十數世を経て現代に至る世々里正たり嚴父藤左衛門君寺子屋師匠となり門人數十人に及ぶ明治二十三年三月弟子報恩碑を門前に建設す君は維新の際修能學校助教となり育英の任に當る爾後公務に従事し村會議員に擧げらるること二回明治三十四年四月富縣村長に就職退職後書畫風月を侶とし當年七十九歳の齡を保ち尙豐饒として壯者を凌ぐの概ありと云ふ

富 縣 村 九 九 三 八 番 地

池 上 忠 治 君

明治十九年三月一日を以て生る

長野縣立上伊那甲種農業學校卒業

明治四十四年三月富縣村役場書記に就職

大正二年三月富縣消防組小頭任命

大正五年十二月富縣消防組部長任命

大正七年四月富縣村農會副會長當選就職

大正八年十二月富縣村南福地耕地總代

大正八年十二月富縣信用販賣購買組合日月館理事

大正九年八月富縣村收入役就職

大正九年九月國勢調査員(内閣任命)

大正十年十月富縣村助役就職

大正十一年九月富縣組合日月館理事、副組合長となる

大正十三年十月富縣消防組頭に任命せられ現職中

大正十四年六月富縣組合日月館理事再選現職中

富縣村

池上昌美君

耕地總代

富縣村收入役

富縣村會議員

其他村及區の公共事務に盡瘁せる所尠からざれ共資料を得る能はざるを遺憾とす

富縣村四三三番地

板山清治郎君

慶應三年正月元日を以て生る

明治二十七年より同三十三年迄消防小頭勤務其間同部長代理を兼務す

同二十九年耕地總代を勤務、同卅二年より同卅三年迄

富縣村役場書記勤務

同四十年より沖中耕地整理施行に付委員勤務

同四十三年より大正二年迄富縣村會議員勤務

富縣尋常高等小學校を現學校に改築の際建築委員

明治四十一年より三ヶ年間産業督勵委員勤務

大正二年より二ヶ年衛生聯合副組長勤務

明治四十五年より大正二年迄隔離病舎建築に付委員

大正八年より同九年迄富縣村助役勤務

同年赤十字社富縣分區委員囑託さる

大正十年富縣尋常高等小學校雨天体操場建築委員兼專務委員副委員長となる

大正十一年富縣衛生聯合組長勤務

大正九年富縣村保證責任富縣信用販賣購買組合創立に

付委員となり同十一年より理事に當選同十三年再選同

十四年副組長に當選現職中

富縣村七七二番地

伊藤今朝之亟君

明治十年四月十日を以て生る

明治四十三年八月富縣消防組小頭就職

大正六年一月北福地耕地總代就職

大正九年二月村衛生副組長就職

大正十一年一月農家組長就職

大正十四年五月富縣村會議員就職現任中

富縣村

伊藤銀彌君

明治元年二月五日を以て生る

大正二年五月富縣村會議員に當選

同六年五月滿期退職

其他村及部落の公共事務に執掌したること尠からざれ共其の資料を得ざるを憾とす

富 縣 村

伊 東 金 太 君

明治十一年十月三日を以て生る

明治三十三年四月富縣村役場書記に選任せられ、同三十四年三月迄勤務

大正五年一月富縣村學務委員當選同七年三月迄勤務

大正五年五月富縣村助役に就職同七年一月辭職

大正七年四月富縣村聯合衛生組合長に當選同八年三月迄勤務

大正十二年三月富縣村長に當選就職同十四年七月辭職

其他消防組部長及組頭を初め村及部落の公共事務に執筆したること尠からず

富 縣 村 二 六 四 九 番 地

六 波 羅 英 治 君

明治五年十二月一日を以て生る

明治二十四年五月富縣村役場書記に就職同二十六年五月辭職す

明治三十六年九月富縣村收入役に就職同三十七年七月退職す

大正四年二月富縣村常設學務委員就職大正四年九月退職す

大正六年五月富縣村々會議員に當選大正九年五月滿期退職

大正十二年三月郡農會豫備議員當選

其他公共の事務に執筆盡力する所尠からず

富縣村二六三七番地

### 六波羅登助君

明治十七年八月二十日を以て生る  
 明治三十七年十二月一日第一師團歩兵第十五聯隊に入隊、同三十八年十月一日歩兵一等卒同日上等兵に昇進  
 同四十年十一月二十五日滿期除隊  
 同四十一年十一月二十六日富縣消防組小頭拜命、同四十二年一月九日富縣消防組第一部長に補せらる  
 同四十三年九月二十五日富縣村産米改良組合創立委員を囑託せらる  
 同四十四年十月十日富縣村役場書記に選任せらる、同四十五年五月二十四日收入役代理吏員に選任  
 大正三年四月一日帝國在郷軍人會富縣村分會第二區理事  
 大正五年四月一日帝國在郷軍人會富縣村分會副長に選任  
 大正七年四月一日富縣村部落有財産統一委員に選任  
 同年四月十日帝國在郷軍人會富縣村分會々長に選任  
 大正七年十月二十六日富縣村新山小學校圖書館名譽館

友に推薦せらる

大正九年一月二十日富縣村農事組合長に選任  
 大正九年七月二十日第一回國勢調査員(内閣任命)  
 大正十年一月一日富縣村中新山耕地總代  
 同年同月同日衛生組合長に選任  
 大正十年六月十三日上伊那郡富縣村主要食糧農産物増殖督勵委員(長野縣囑託)  
 大正十一年四月一日富縣村縣稅戶數割調査委員囑託  
 大正十一年四月十九日富縣村常設學務委員當選現職中  
 大正十二年一月一日富縣村農家組合長に選任  
 大正十二年三月十八日富縣村農會總代に當選  
 大正十二年四月二十日富縣村河南村美篤村三ヶ村經營字場廣山營林學林整理委員に當選  
 大正十四年二月一日富縣村三新山北林電燈需用組合長に當選現職中  
 大正十四年四月一日帝國在郷軍人會富縣村分會名譽會員に推薦せらる  
 明治三十九年四月一日三十七八年戰役の功に依り金五拾圓を賜はり同日日露戰役從軍記章を賜はる  
 明治四十年三月十一日第三種射擊徽章を授與せらる

富縣村二四六一番地

### 六波羅龜太郎君

明治三十年十月二十日を以て生る  
 明治四十三年三月二十七日富縣村會議員に就職、大正二年五月九日滿期  
 明治四十一年十月二十四日富縣村助役に就職、同四十三年三月七日辭職  
 明治四十四年二月一日同村聯合衛生組合副長に就職、大正二年二月四日辭職  
 大正四年一月十八日同村消防組頭就職、同六年三月九日辭職  
 大正六年富縣信用購買組合理事に就職現任中

富縣村二六二一番地

六波羅彌十君

明治二十五年四月富縣村學務委員に就職

同廿八年三月迄勤務

明治二十五年四月富縣村聯合衛生組合副長に就職

同二十八年三月迄勤務

明治三十六年二月富縣村役場書記に選任せられ同年八月迄勤務

明治四十年五月富縣村會議員に當選

同四十三年三月退職

其他村及部落の公共事務に執筆すること尠からず

富縣村七二二八番地

橋爪千代造君

明治四年十二月十日を以て生る

明治三十五年より同卅七年迄富縣村役場書記勤務

明治卅七年七月より同卅八年六月迄同村收入役勤務

明治卅八年六月より同四十年六月迄同村助役勤務

明治四十年六月より同四十二年九月迄同村長勤務

明治四十四年四月より大正二年四月迄富縣村聯合衛生組合長勤務

大正二年五月より大正六年五月迄富縣村會議員勤務

大正四年十月より同六年九月迄上伊那郡會議員勤務

大正九年保證責任富縣信用販賣購買組合日月館理事に就職爾來引續現職中



富縣村七二四七番地

### 橋爪初太郎君

明治九年四月九日を以て生る

上伊那甲種農業學校冬期卒業

明治四十三年五月富縣村役場書記就職

明治四十四年一月富縣消防組第三部長拜命

大正二年二月富縣聯合衛生組副長就職

大正六年二月富縣村收入役就職

大正七年二月富縣村助役就職

大正十二年四月富縣聯合衛生組長就職

大正十四年八月富縣村長に就職現職中

二五八

富縣村七二三九番地

### 橋爪七藏君

明治十七年二月二十日を以て生る

大正九年四月一日より本村役場書記就職

大正十年八月三十日迄勤務

大正十三年耕地總代勤務

大正十三年九月一日より本村收入役就職現任中

富縣村四五六七番地

### 春日吉治郎君

明治元年九月 生る

富縣消防組小頭、部長、組頭、拜命勤務

村役場書記、收入役、助役、勤務

村會議員及學務委員當選勤務

聯合衛生組長勤務

其他公共の爲めに盡瘁したること少からざれ共詳細なる資料を得る能はざるを遺憾とす

富縣村

### 上沼傳重君

明治十九年四月四日正木和十君の二男に生る

明治三十二年高等小學校卒業

明治三十九年十二月鐵道隊に入隊同四十一年十二月任伍長

同四十二年十一月任軍曹

同四十三年四月射擊優等賞

同年十一月善行證書附與

同年十一月滿期除隊

同四十五年三月村軍人分會長

同年三月上沼へ入夫婚姻

大正五年十二月縣警察部長より表彰

大正七年九月鐵道第二聯隊長より表彰

大正八年三月軍人分會長より表彰

同年十二月赤十字社終身社員

大正十年四月消防同盟會長より表彰

大正十一年八月任曹長

大正十二年五月消防組小頭

大正十三年一月帝國在郷軍人會長より表彰

同年三月軍人分會長より表彰

同年十月縣聯合消防同盟會總裁より表彰

二五九

富 縣 村

吉 澤 權 造 君

明治十一年三月一日を以て生る  
 明治三十八年四月野戰砲兵第十七聯隊に入營、時恰も  
 日露戰役中なりしたため同年八月滿洲方面に出征す、戰  
 後同卅九年三月砲兵一等卒に昇進  
 大正六年より同七年迄富縣消防組小頭勤務  
 同七年耕地總代勤務  
 同十四年五月富縣村會議員に當選現職中  
 同年公有林野整理委員に當選現任中  
 尙現在同村農會總代及保安組合長の職に在り

二六〇

富縣村八一八〇番地

勳八等 田 畑 龜 治 郎 君

明治七年二月二十日を以て生る  
 明治二十七八年戰役及明治三十七八年戰役に從軍し戰  
 功あり  
 明治三十九年四月一日明治三十七八年戰役の功に依り  
 勳八等白色桐葉章及金貳百圓を賜はり同日三十七八年  
 從軍徽章を授與せらる  
 大正十年五月富縣村會議員に當選十四年五月八日に至  
 る迄勤務

富縣村三二五番地

田 畑 增 太 郎 君

明治元年九月九日を以て生る  
 明治廿三年四月より同年十一月迄富縣村役場書記勤務  
 同年富縣村役場建築委員及北福地耕地總代勤務  
 同年一月より廿四年十二月迄兵役優待委員幹事勤務  
 明治廿七年十一月より富縣學校新築擔當員勤務  
 同三十年五月富縣村清潔委員當選勤務  
 同年四月富縣尋常小學校新築費として金壹百圓寄附す  
 同年九月富縣村收入役に選任せらる  
 明治卅一年九月富縣村長に當選、卅三年三月辭職  
 同卅三年四月より卅五年四月迄富縣衛生組合長勤務  
 明治卅四年五月より四十年五月迄同村會議員勤務  
 同卅四年五月より卅九年三月迄同村學務委員勤務  
 同卅八年一月より四十年八月迄上伊那郡會議員勤務  
 同卅九年十一月より四十一年二月迄富縣消防組頭勤務  
 同四十二年十月より四十三年二月迄再び村長勤務

二六一

富縣村二四五番地

田畑金江君

明治十八年七月三日を以て生る

明治卅八年十二月近衛野戰砲兵聯隊入營

同四十年四月野戰砲兵射擊學校教導大隊に分遣、滿期に際し善行證書及酒肴料を下賜せらる

大正三年二月富縣村役場書記に就職

大正四年四月富縣消防組第一部長任命

同年十月上伊那消防同盟會長より賞状を受け、又長野縣警察部長より賞状を受く

大正十年二月在郷軍人富縣村分會副會長就職

大正十一年十二月同上會長就職

同年同月帝國在郷軍人會長川村閣下より表彰状を受く

大正十二年耕地總代勤務

大正元年四月教育費土木費寄附其賞として縣知事より木杯を下賜せらる

富縣村四六一番地

田中鐵彌君

君は俳號を生蘇居希世起と稱す、嘉永二年四月八日を以て同村に生る、幼より文學を好み長して舊高遠の藩士青山左内翁に就て漢籍を學び、後中年に至り思ふ所ありて俳道に入り、故吳竹園凌冬翁の門に入り教を受くること二十有餘年、明治三十一年立机を許さる、爾後地方俳友の爲に盡す所あり、且天下の大家と風交怠りなく連歌卷數七百五十四卷となる、大正十一年門人等相謀りて壽碑を建設せられたり、今年既に七十八齡を迎へたるも百八十餘人の門下生に教授し、文音連句と俳諧傳系 芭蕉―北枝―希因―關更―蒼虬―芹舎―凌冬―希世起―

風 韻 四 季

梅 咲 や また 根 元 に は 汚 れ 凍  
一 輪 で こ の 足 る べ き 牡 丹 哉  
い く 泊 り 紅 葉 に 暮 れ つ 木 曾 の 旅  
わ が 事 と 思 へ ば かな し 古 曆

富縣村二九七六番地

竹内竹十君

慶應二年八月十八日を以て生る  
明治三十七年中新山耕地總代就職  
明治四十五年尙武會幹事就職  
大正二年五月より同六年五月迄富縣村會議員勤務  
大正七年中新山耕地總代勤務  
大正七年農事小組合長勤務

富 縣 村

勳八等 竹松周一郎君

明治廿二年商業の目的を以て横濱市に出で商業に従事  
中同二十六年徴兵として麻布歩兵第一職隊に入營し翌  
二十七年八月日清の戦役起り第一師團に屬し出征し各  
地に轉戦し翌廿八年五月十八日平和克復に至り同年十  
一月戦功に依り金圓及従軍記章を賜ふ翌廿九年四月臺  
灣守備に屬し渡臺し同年十二月歸朝直ちに除隊歸郷を  
命せらる

明治三十七年日露の戦役起るや同年八月第七師團の勳  
員下命に應じ北海道旭川に召集せられ歩兵第廿八聯隊  
に屬し出征の途に上り各地に轉戦の折柄同年九月十六  
日休戦同卅九年二月二十八日清國を出發三月歸朝直ち  
に召集解除と成り歸郷す同年六月戦功に依り勳八等白  
色桐葉章及一時金貳百圓外に従軍記章を賜はる  
同年九月二十五日附を以て戦時法規に依り年金恩給證  
書を賜ふ、以來農業に従事しつつあり  
大正十四年五月十日富縣村會議員に當選し村政に參與  
す

二六四

富縣村四八四番地

竹松治之吉君

明治十一年十月十五日を以て生る

大正二年五月富縣村々會議員に當選滿期迄勤務

大正七年四月富縣村學務委員就職滿期迄勤務

大正十二年五月富縣村助役就職

大正十四年八月保證責任富縣信用販賣購買組合日月館

組合長理事就任現任中

富縣村四六三番地

竹松兼彌君

明治元年八月廿八日を以て生る

大正十年五月富縣村會議員に當選

同十四年五月滿期退職

其他村及部落の公共事務に鞅掌したること尠からず

富縣村二九番地

武村熊十君

明治元年九月を以て生る

明治四十三年三月富縣村聯合衛生組合副長に當選

同四十四年一月退職

其他村及部落の公共事務に鞅掌したること尠からず

竹 村 奎 八 君

明治八年十一月二十日を以て生る  
大正十四年五月富縣村會議員に當選現に其職に在り  
其他村及部落の公共事務に執筆すること少からざれ共資料を得ざりしを憾とす

筒 井 兼 治 君

嘉永四年八月十日を以て生る  
明治二十八年一月より同年十二月迄新山耕地總代勤務  
同四十一年一月より四十二年四月迄新山小學校建築委員勤務  
同四十三年三月二十七日富縣村會議員に當選大正二年二月滿期迄勤務  
大正元年十月富縣村隔離病舎建築委員  
同四年二月富縣小學校増築に付建築委員に當選滿期迄勤務  
同六年三月富縣村聯合衛生組合副長に當選滿期迄勤務  
明治十三年十二月傳染病豫防費として金員を寄附本縣より賞状を受く  
同廿二年十二月道路開鑿費として金員を寄附本縣知事より賞状を受く  
同二十四年七月新山簡易小學校増築費寄附本縣知事より賞状を受く  
同廿八年一月軍資金の内へ献金陸軍恤兵監より賞状を受く

受く

同廿九年六月巖手、宮城、青森三縣下大海嘯の際罹災者救恤費として寄附の廉に依り謝状を受く  
同三十年六月明治二十七年、八年戰役軍資金献納の廉に依り本縣知事より賞状を受く  
同年富縣小學校新山分教場新築費寄附に依り長野縣知事より賞状を受く  
同卅三年六月富縣小學校新山分教場備品費として寄附本縣知事より賞状を受く  
同卅八年十二月新山小學校備品費として金貳拾圓寄附其賞として本縣知事より賞状及木杯下賜せらる同卅九年一月三十七、八年戰役の際從軍者家族扶助の爲め寄附本縣知事より賞状を受く  
同四十一年四月上伊那消防同盟會へ寄附同會長より名譽會員に推薦せらる  
同四十四年三月新山小學校建築費へ寄附本縣知事より賞状並木杯壹個を受く  
大正二年三月より新山公有山野整理組合理事勤務同四年五月謝状並磁盃壹個を贈らる、同年富縣小學校營繕費寄附本縣知事より賞状及木杯を受く

富 縣 村

中 原 八 藏 君

嘉永六年六月一日元貝沼村(現今の富縣村字貝沼)に生る

祖先の業を繼ぎ農業に従事し且公共の爲に盡瘁しつゝあり

明治十二年富縣村戸長役場筆生となる

明治十五年富縣村衛生委員となる

同十六年富縣村戸長に任せらる

同十六年富縣村各學校學務委員となる

同十九年富縣村々會議員に當選、同十九年東春近村富縣村聯合村會議員に當選

同廿二年初めて町村制實施に際し富縣村々會議員となり尋ひて同村々長に就職す

同廿四年郡徴兵參事員改選に付選舉立會人を勤む、同廿五年富縣村學務委員兼衛生委員に當選、

同廿六年再び富縣村長に就職す

同廿七年日本赤十字社員となる、同三十年賞勳局より明治二十七八年事件の勞により菊花御紋章木杯一組を

賜はる、同三十年長野縣より富縣學校新築費へ金員を寄附せしに付木杯一個を賜はる

同三十年帝國農家一致協會より夙に公益に盡力せし廉により表彰を受く

同卅二年富縣村役場備品費へ金員を寄附せしに付長野縣より木杯一個を賜はる

同卅六年上伊那郡會議員に當選、同四十年十月迄勤務

大正七年長野縣より米價騰貴の救濟資金として富縣村へ金員を寄附せしに付木杯一個を賜はる

富 縣 村 二 八 一 番 地

中 原 金 十 君

文久三年九月十三日を以て生る

明治十六年長野縣師範學校卒業

君の自ら語れる經歷及所感を左に記す

明治十六年より富縣村其他の小學校に教鞭を採ること三十餘年何の手柄もなく荏苒星霜を経たるは畏くも

天皇陛下の御恩澤と社會の御洪恩に依ること、痛く謝する次第である退隱の辭あり左に

葦々薰陶、塗板、前

努力却 賊三夫人、子

瀆職過得三十年

汲々看護、高机、邊

大正の初年名譽心に驅られ世の御伊達に乗り、俗務に携はり何や彼やで十餘年漸く人に見捨てられ無用の長

物となりぬ、述懐一首を賦して思を遣る

○世の中に不平の事があるならば川へ飛ぶべし腹を切るべし何の悟る所なきにも係らず自ら悟了子と號し文

學なきにも關せず文人畫と書を好み人の下手と嘲るも顧みず己れは上手に誇り今日に至る亦面白し精神遲鈍

意氣薄弱なれども肉身倭小骨格強健壽命百二十才と豫定す併し豫算超過するやも計られず辭世は前以て用意

せり云々

○長生きをすればする程恥多しされど若くて死にたくもなし、○先考長五郎君農業篤かりし故を以て明治三

十年七月廿四日帝國農家一致協會頭正五位鹿嶋則文氏より左の表彰狀を贈らる

資性質朴専ら意を稼穡に勵し勤儉家資を増加し子女の庭訓亦見るべきものあり洵に地方農民の模範たり仍て

特に報徳訓を贈與す

富縣村六〇八四番地

埋橋 象衛君

明治十一年十一月八日を以て生る  
 明治四十一年二月より大正四年二月迄上伊那郡農會議員勤務  
 大正四年二月より大正八年二月迄富縣村長勤務  
 大正四年二月より大正八年二月迄富縣村農會長勤務  
 大正七年三月より大正八年九月迄富縣消防組頭勤務  
 大正七年四月日本赤十字社特別社員に列せらる  
 大正九年二月より大正十二年八月迄富縣信用販賣購買組合長勤務  
 大正十二年七月方面委員を囑託せられ現任中  
 大正十二年三月上伊那郡農會議員就任現任中  
 大正十四年四月富縣聯合衛生組長就任現任中  
 大正十四年六月所得稅調查委員就任現任中

富縣村五七七二番地

埋橋 湧太郎君

明治六年四月八日を以て生る  
 明治廿七年十二月富縣村書記に選任せられ同廿九年三月迄勤務  
 明治四十三年三月富縣村長に當選就職同四十四年五月辭職其間同村農會長を兼務  
 大正六年十二月十日上伊那郡農會議員に補缺當選同八年十月滿期迄勤務  
 大正十四年五月富縣村農會議員に當選現に其職に在り

富縣村

埋橋 福一君

明治十四年六月十日を以て生る  
 大正七年四月富縣聯合衛生組副長に就職  
 同九年四月迄勤務  
 大正十四年五月富縣村農會議員に當選現職中  
 其他村及部落の公共事務に執掌せること少からず

富縣村一四六七番地  
勳八等 山崎銀造君

明治十四年九月七日を以て生る  
 明治三十七、八年戰役に從軍  
 明治四十三年十月役場書記に選任せられ同四十四年十月辭職  
 大正三年十月より大正五年四月迄尙武支會幹事  
 大正五年より上伊那畜産組合代議員たること二回  
 大正十二年耕地總代(區長に同じ)勤務  
 大正十四年五月富縣村會議員當選現職中  
 明治卅九年四月一日勳八等に叙し金七拾圓を賜はる同日從軍記章附與せらる  
 明治四十二年十二月消防の功勞により上伊那消防同盟會長より賞狀並に木杯を受く  
 大正五年より大正十二年迄の間に養蠶並に畜産業に對し長野縣知事より木杯其他の受賞四回  
 大正七年清潔法優良に付聯合衛生組合長より表彰せらる  
 稻作多收穫苗代品評會等に於て上伊那郡長より受賞三回  
 大正十三年八月馬匹改良増殖其他の功により上伊那郡長より表彰せらる  
 其他農産物品評會等に於て受賞八回

富縣村二九七九番地

間澤兼彌君

明治三十四年五月富縣村會議員に當選  
 同四十年滿期迄勤務  
 中新山耕地總代たりしこと二回  
 其他村及區の公共事務に盡瘁せること尠からず

富縣村一〇七番地

寺澤犬藏君

明治三年一月一日を以て生る  
 明治廿年四月より同廿一年五月迄富縣村役場書記勤務  
 明治卅八年七月より同卅九年八月迄富縣村收入役勤務  
 明治四十一年四月より同四十四年五月迄富縣村學務委員勤務  
 明治四十五年五月より滿期迄富縣村會議員勤務  
 大正九年八月より同九年九月迄富縣村助役勤務



富縣村四七三一番地

藤澤六三郎君

明治十年一月十四日を以て生る

大正二年四月九日より同年九月廿七日迄富縣村收入役勤務

大正二年九月廿八日より大正三年九月廿三日迄同村助役勤務

大正八年二月二十日より大正十二年二月十九日迄同村長勤務

大正十四年五月富縣村會議員當選現職中

村長就職中重なる事蹟を擧ぐれば左の如し

部落有林野統一、新山小學校校舍増築、富縣小學校雨天体操場建築、宮田高遠線ノ縣道編入、富縣村小學校  
統一等

富縣村一八四番地

藤澤新太郎君

文久三年三月廿二日を以て生る

明治卅一年一月より同卅四年三月迄富縣消防組第二部長勤務

明治卅七年五月より同卅八年五月迄富縣村助役勤務

明治四十年五月より同四十三年三月迄同村會議員勤務

明治四十一年二月より同四十二年九月迄同消防組頭勤務

明治四十二年富縣小學校建築委員勤務

其他耕地總代二回を始め公共の事務に鞅掌したること尠からず

富縣村二六九番地

勤八等 小牧文太郎君

明治二年三月廿三日を以て生る  
 明治卅一年富縣村收入役勤務  
 同卅三年二月富縣村農會副會長勤務  
 同年九月同上代議員  
 同年九月上伊那郡農會評議員當選卅四年四月組織變更に依り退職  
 同卅七年四月富縣消防組頭就職  
 同年七月大日本消防協會終身特別會員  
 同年八月大日本消防協會長野支部委員  
 同卅八年二月富縣村長就職  
 同年三月富縣尙武會々長就職  
 同年四月富縣村農會長就職  
 同年四月日本赤十字社富縣分區委員就職  
 同年四月富縣產業督勵委員長就職  
 同年七月帝國義勇艦隊建設上伊那郡委員  
 同年七月信濃衛生會特別會員  
 同年七月信濃衛生會幹事

二七六

同年十月上伊那神職合議所協賛員  
 同卅八年三月愛國婦人會地方委員  
 同四十一年帝國在郷軍人會富縣分會名譽會員  
 同四十五年五月富縣衛生聯合組長就職  
 同四十五年七月富縣村農會名譽會員に推薦せらる  
 大正二年六月上伊那郡會議員補缺當選同四年十月滿期  
 大正五年十月富縣青年會名譽會員  
 大正七年四月學務委員  
 明治卅七年十二月本縣より消防組頭特別功勞證に依り表彰せらる  
 同卅九年十月日本赤十字社より木杯を受領  
 同卅九年四月勤八等白色桐葉章を賜はる  
 大正十二年十一月長野縣養蠶組合聯合會より模範養蠶組長として表彰せらる

富縣村六〇二四番地

小牧一郎左衛門君

明治十年十月十九日を以て生る  
 明治卅六年九月富縣村役場書記に選任せられ同卅七年九月退職  
 明治卅六年十月上伊那郡農會地方事務員に選任せられ同卅八年四月迄勤務  
 大正五年四月富縣村聯合衛生組合副長に就職同十年四月退職  
 大正九年富縣村收入役勤務  
 其他富縣消防組部長耕地總代等を始め村及部落の公共事務に鞅掌せること尠からず

二七七

富縣村

小牧 奎 衛 君

明治十八年九月一日を以て生る

富縣郵便局新設の際局長に任命せられ引續き勤務中

其他村及部落の公共事務に執筆せる所少からされ共其資料を得る能はざるを憾とす

富縣村五五八六番地

小松 庄 太 郎 君

明治六年四月十五日を以て生る

明治卅五年二月富縣村役場書記就職

明治四十二年三月富縣村々會議員當選

大正十二年富縣村農會總代當選

大正十五年四月富縣村學務委員當選

大正十六年四月富縣聯合衛生副組長當選

尙同家は郡下屈指の大農家にして農事の改良に熱心なるを以て地方農家の模範たり表彰せられしと數回なり  
平和記念東京博覽會に際し産米を出品し左記の褒狀を授與せらる

玄米 縞坊子

褒

狀

審査官

正長野縣

從六位

正六位

從三位

從二位

從二位

從二位

從二位

松 庄

本 庄

藤 崎

山 井

平 井

平 井

平 井

平 井

中 太

嘉 信

信 成

時 成

時 成

時 成

時 成

時 成

衛 郎

德 郎

博 郎

敬 郎

信 郎

信 郎

信 郎

信 郎

印

印

印

印

印

印

印

印

審査の成績に依り前記の褒狀を授與す  
大正十一年七月十日  
平和記念東京博覽會總裁  
平和記念東京博覽會會長

東京府知事從三位勳二等  
大正十一年七月十日  
平和記念東京博覽會總裁  
平和記念東京博覽會會長

印

富 縣 村

會 田 齊 君

明治四十五年上伊那農學校卒業  
大正元年十月より大正二年三月迄新山小學校教員奉職  
大正九年富縣青年會副會長に當選  
大正十一年富縣青年會長及上新山青年會長たり  
大正十四年一月より富縣村農家組合上新山聯合會長當  
選現職中

二八〇

富 縣 村 九 番 地

會 田 音 治 君

明治七年九月廿六日を以て生る  
大正四年一月耕地總代となり一ヶ年勤務  
大正九年富縣衛生聯合組合副長に推選せられ  
同十三年辭職  
大正十二年三月農會總代に當選し爾來其職に在り  
大正十四年五月富縣村會議員に當選し現任中

富 縣 村 四 七 九 五 番 地

櫻 井 鐵 十 君

明治十二年十二月廿七日を以て生る  
明治卅五年六月富縣村役場書記就職同卅六年八月退職  
大正三年富縣村櫻井耕地總代就職  
大正四年二月富縣村收入役に就職同六年二月退職  
大正四年富縣村農會幹事就職同五年退職  
同七年富縣村聯合衛生組合副組合長就任同九年退職  
同十三年八月富縣村助役に就任現任中  
同十四年國勢調査委員拜命  
大正五年二月産業督勵委員勤務中の功勞に依り上伊那郡長より表彰せらる

二八一

富縣村一〇〇九番地

酒井貴男君

明治十六年二月廿八日を以て生る

日本醫學專門學校卒業

耕地總代

小學校建築委員

富縣村會議員等其他の公共事務に執掌せること尠からず又教育費寄附により長野縣より三ツ組木杯一組を受

産駒品評會出品の仔馬一等に依り長野縣より三ツ組木杯一組を受く

祖父新平治君は池泉堂露鶴と號し風雅の道を風羅堂松雨に學び俳句を克くす

木がらしのはこぶ遠音や

山の鐘

富縣村九九二三番地

酒井増治郎君

明治七年十月十日を以て生る

明治四十三年南禰地耕地總代勤務

大正四年富縣小學校建築委員勤務

大正九年五月富縣聯合衛生組合長就職

大正十年五年富縣村村會議員當選同十四年五月迄勤務

富縣村六四〇八番地

北原榮君

明治六年五月五日を以て生る

明治卅七年度富縣村員沼耕地總代勤務

同卅六年四月廿五日同村消防組小頭拜命同卅九年十月

依願免職

同四十三年四十四年の二ヶ年間富縣東春近兩村に亘る

共有田用水井筋總代勤務

同四十五年七月八日同村助役就職大正二年九月病氣退

職

大正九年度耕地總代勤務

大正九年一月より大正十四年七月迄富縣信用販賣購買

組合監事就任

大正十二年十三年の兩年度富縣聯合衛生副組合長就任

同十四年五月同村々會議員當選現任中

富 縣 村  
北 原 民 治 君

明治九年三月一日を以て生る  
大正十年五月富縣村會議員に當選  
同十四年五月滿期退職  
其他先年上伊那畜産組合副會長たりしを始め村及部落の公共事務に盡瘁したること尠からず現に官行造林看  
守の職に在り

富 縣 村 九 八 八 三 番 地

宮 下 昌 男 君

明治十三年二月四日を以て生る  
東京府立城北中學校及正則英語學校卒業  
明治四十三年耕地總代勤務  
大正二年村衛生組合副長勤務  
大正四年富縣村役場書記勤務  
大正六年春富農業倉庫組合監事となる  
大正七年富縣村收入役就職  
大正十年富縣村會議員當選  
大正十一年富縣村助役就職  
大正十四年富縣信用販賣組合監事となる

富縣村九九三六番地

宮下喜保君

明治十八年七月廿五日を以て生る

富縣村役場書記勤務

東春近小學校、伊那小學校、赤穂小學校、富縣小學校  
代用教員奉職

上伊那信用販賣組合及富縣信用販賣購買組合理事及監  
事勤務

現に富縣村農會副會長勤務中

富縣村

宮崎泰十君

明治四十年六十聯隊へ入營

同四十一年戸山學校へ分遣さる

同四十二年十一月元隊復歸下士適任證及善行證書授與  
さる

同年歸休除隊となる

大正五年勤務演習歩兵伍長に昇進其他賞狀澤山あり

消防小頭指揮官を勤むること七ヶ年

縣郡の功勞證及特別功勞證を授與せられたり

富縣村四四二四番地

鹿野哲君

慶應二年七月廿四日を以て生る

明治卅九年同四十年七ヶ耕地大井筋總代勤務

同四十一年一月より同十二月迄櫻井耕地總代を勤む

大正四年一月より同六年十二月迄村社八幡社氏子總代  
を勤む

大正十四年五月十日富縣村々會議員に當選現職中

富縣村一七六番地

鹿野兼太郎君

文久元年十二月三日を以て生る

明治卅二年五月富縣村役場書記に選任せられ同卅三年  
三月迄勤務

明治四十三年三月富縣村會議員に當選

大正二年五月迄勤務

大正九年四月富縣村聯合衛生組合副長に就職

同十一年三月迄勤務

富 縣 村

### 下島勝次郎君

文久二年八月十六日を以て生る  
 明治十六年七月長野縣師範學校卒業  
 明治十七年一月上伊那郡富縣村小學校に就職し大正十一年八月退職す  
 任職實に三十八年八ヶ月なり  
 其後北安曇郡常盤村小學校及上伊那郡小野村小學校に奉職せしことありしが目下退隱閑日月を送り居れり

河南村大字小原六四九番地

### 伊 東 一 布 君

明治十八年十月五日を以て生る  
 大正四年五月より同六年四月迄河南村役場書記勤務  
 大正九年十月第一回國勢調査員勤務  
 大正九年十一月長野縣勢調査員勤務  
 大正十年六月より長野縣產業統計調査員勤務  
 大正十年十一月より十三年一月迄河南消防組頭代理兼小原部長勤務  
 大正十年五月より十一年五月迄河南村收入役勤務  
 大正十一年七月より十三年一月迄小原農事改良組合長勤務  
 大正十二年度小原區長勤務  
 大正十二年四月より河南村農會總代勤務  
 大正十二年四月より上伊那郡農會議員勤務  
 大正十四年一月村社熊野社氏子總代勤務  
 大正十四年四月より清福寺檀徒總代勤務  
 大正十四年九月第二回國勢調査員勤務



河南村大字下田一二三五番地

### 伊 藤 隆 衛 君

明治五年九月廿七日を以て生る  
 帝國健全哲學館大學高等師範部卒業  
 元陸軍參謀本部測量部官吏、帝國健全哲學館大學院信濃分院長、哲學士  
 區長、總代、現村會議員、林野統一整理委員、上伊那東部公益調査委員、  
 國勢調査員(内閣任命)

令 妹

### 伊 藤 さ か ゑ 子

明治二十六年十二月十五日を以て生る  
 和洋裁縫女學校並に中等教員養成科卒業  
 元教育家  
 大正七年九月渡米  
 北米合衆國沙港在住  
 大日本帝國領事館書記



河南村大字上山田二五二番地

勳八等 西村 周吉君

明治十年五月十五日を以て生る

明治三十七八年日露戦役に従軍其功績に依り勳八等に叙せられ併せて従軍記章を授與さる

明治四十一年一月河南消防組上山田部長任命大正三年十二月辞任す

大正六年四月河南村會議員當選、同十年四月迄勤務

大正八年上山田區長代理當選

大正八年上山田區衛生組合長となる

大正九年一月河南信用購買組合理事當選

大正十年二月部落有財産統一委員となる

大正十年七月三峯生糸信用販賣組合理事當選、大正十三年七月満期再選現職中

大正十年十一月河南村消防組頭任命現職中

大正十一年四月長野縣聯合消防同盟會評議員となり現任中

大正十三年三月長野縣聯合消防同盟會代議員補充員となる

大正十三年十月河南村保安組合聯合會副會長當選現職中

大正十四年四月再び河南村會議員に當選現職中

河南村大字上山田

田中貞治君

明治十二年十一月を以て生る

明治廿七年三月高遠學校卒業

大正二年十一月河南消防組小頭任命

同三年十二月より同五年十二月迄上山田部長に補せらる

大正三年二月より大正四年三月迄河南村役場書記勤務

大正五年四月河南村助役に就職、同年十月家事の都合

に依り辞任

大正十年四月河南村會議員に當選、大正十四年四月満

期

大正十三年一月より河南信用購買組合理事に就職

河南村大字小原

鎌田八百三郎君

嘉永四年六月廿二日を以て生る

明治六年十二月小原文谷學校助教員となる

同十四年三月舊河南村勸業委員となる

同十四年舊小原村衛生委員となる

同十五年六月舊小原村戸長に任命

同十七年二月舊小原村勸業委員となる

同年七月舊小原村會議員當選

同十八年五月西高遠町外五ヶ町村聯合會議員となる

同廿二年九月河南村役場書記に就職

同廿八年四月河南村會議員に當選、満期迄勤務

同卅三年十月河南村助役となる

河南村一二五番地

### 山川増次郎君

明治四年十月廿一日を以て生る  
 中學三年修業、東京法學院に於て法律學、英語學二ヶ年修業、故文學博士根本通明先生に就き漢學二ヶ年修業、長野縣高等蠶糸講習修了  
 明治卅一年九月より卅四年四月迄河南村收入役勤務  
 同卅三年五月河南消防組小頭任命、同卅四年四月同消防組下山田部長任命、同卅五年四月河南消防組頭任命  
 同四十二年十一月迄勤務、其間四十一年上伊那消防同盟會常務幹事勤務、同會より木杯及番時計を贈與せらる、尙縣より功勞證を下附せらる、  
 明治卅四年四月河南村會議員當選同四十年四月迄勤務  
 同卅五年上伊那郡農會出席代表者に當選、同會理事及地方事務員に選任せらる、同年下山田區長勤務  
 同卅六年五月河南村長に就職、同卅九年九月迄勤務  
 在職中日露戰役に關する功勞により勳八等に叙し白色桐葉章を賜はる  
 同卅六年六月日本赤十字社分區委員を囑託せらる

二九二

同卅七年河南村農會長に就職、同四十一年六月大日本蠶糸會信濃支會上伊那郡委員を囑託せらる  
 同年長野縣主催一府十一縣聯合共進會委員囑託せらる  
 同四十二年三月より河南聯合衛生組會長勤務  
 同四十三年産業督勵委員勤務  
 同四十四年十月上伊那郡會議員に當選、大正四年十月迄勤務、其間大正二年七月郡參事會員に補欠當選、同四年十月滿期、大正四年上伊那蠶種同業組合評議員勤務  
 大正五年下山田區長勤務、大正六年三月河南村學務委員に當選、同十年九月迄勤務、同六年四月再び河南村會議員に當選、同十年四月迄勤務、大正七年三月より同十二年二月迄上伊那蠶種同業組合長勤務、同組合より金時計を贈らる、同七年五月より同十一年八月まで三峯生糸信用販賣組合理事組合長勤務、同十年二月より同十二年二月まで伊那生糸販賣組合聯合會龍水社監事勤務、同社より大花瓶一個を贈らる、同十三年より上伊那蠶種同業組合代議員勤務、其他上伊那郡農會農事諮問會員、上伊那蠶種同業組合縣外蠶業調査員、長野縣原蠶種審査員其他公共の爲めに盡力したること尠からず

河南村大字下山田一〇五一番地

### 博愛館 山川博愛君

明治三十二年一月四日を以て生る  
 大正二年四月長野縣立小縣蠶業學校へ入學し大正五年三月同校本科を卒業す  
 大正九年三月母校に於て蠶卵胚子發育實驗（蠶卵即時解剖）の講習を受く  
 大正六年父の後を繼ぎ蠶種製造業に従事し爾來堅實を旨とし研究努力し春夏秋蠶共理想的優良蠶種の製造をなし養蠶業の改良發達に努力しつゝあり

河南村一三四番地

### 矢野房太君

萬延元年十二月十五日を以て生る  
 明治二十五年四月河南村會議員に當選、同二十八年及三十七年に再選同四十三年迄勤務  
 同二十六年一月より十二月迄下山田區長代理勤務  
 同三十一年十一月河南村助役に就職  
 同三十一年より同三十三年迄河南消防組小頭及部長勤務  
 同三十一年より大正三年迄七回三峯川通河岸修繕工事地元諸負人總代勤務  
 同四十年十二月河南村長に就職同四十二年四月迄勤務  
 同四十年十二月より同四十二年四月迄河南村農會長勤務  
 同四十年より同四十二年四月迄河南村尙武支會長勤務  
 同四十三年より四十五年迄同村學務委員勤務、大正八年より同十三年迄三峯生糸信用販賣組合理事勤務  
 其他下山田區會創設以來大正十四年迄引續き區會議員たるを始め村及區の公共事務に鞅掌したる事尠からず

二九三

梅胤居一世二世世頌德碑  
筆子建之



河南村

前田金治君

河南村會議員、尙武會委員、衛生委員、消防組小頭、部落有財産統一委員、所得調査委員、八幡社氏子總代、區長及區長代理者、塙廣山分割整理委員等勤務、又併道に入り梅胤居金洲と號し、上伊那正風會長たり

河南村大字勝間一三八二番地

小松浪太君

明治二年十一月二十九日を以て生る  
 明治二十二年十二月一日歩兵として第一師團歩兵第十五聯隊へ入隊  
 同二十五年十月三十日暇休除隊善行證書下士適任證書附與せらる  
 同二十七年八月三十日日清戰役の際充員召集に應じ歩兵第十五聯隊補充大隊に入隊同二十八年五月二十二日召集解除、明治二十九年一月三十日戰役の功により金四拾五圓及從軍記章授與せらる  
 同三十三年九月十四日陸軍歩兵曹長  
 同三十七年河南村勝間區長勤務  
 同卅七年四月河南村會議員に當選、同四十三年迄勤務  
 同三十七年十一月十二日日露戰役の際歩兵第二聯隊へ臨時召集  
 同三十八年一月二十二日任陸軍歩兵特務曹長  
 同三十八年一月二十九日出征の目的を以て佐倉屯營出發三十一日廣島着二月五日宇品港出帆同十日清國青泥

窪上陸

同三十八年二月十一日より清國旅順口砲台守備に任ず  
 同三十八年三月一日より包道屯三台子奉天の戰闘に參加す  
 同三十八年五月三日任陸軍歩兵少尉  
 同三十八年六月十二日叙正八位  
 同三十九年河南村勝間區長勤務  
 同三十九年四月一日戰役の功により勳六等單光旭日章及金參百五拾圓を賜はる  
 同四十年四月再び河南村會議員に當選、大正二年四月再選同六年迄勤務  
 同四十二年十一月河南消防組頭任命  
 同四十四年度河南村勝間區長勤務  
 大正三年二月河南村助役に就職  
 大正三年五月河南村聯合衛生組合長就職  
 大正四年一月より大正八年一月迄河南村長勤務

河南村七九番地

### 前田 富十君

慶應二年十月十二日を以て生る  
明治三十七年區長に當選就職す  
明治三十九年四月村會議員に當選就職す  
明治四十五年四月迄六ヶ年勤務  
其他村及區の爲め盡瘁する所少かす

河南村大字下山田二二〇一番地

### 小松 義房君



明治二十四年四月三十日を以て生る  
大正七年一月より同十一年一月迄上伊那郡聯合青年會  
代議員、大正八年十二月より同九年十二月まで下山田  
青年會長大正九年十二月より十年四月まで上伊那郡聯  
合青年會評議員、大正九年十二月より同十一年一月ま  
で河南村青年會長、大正十三年七月河南村三峯生糸信  
用販賣組合理事に就職現任中、同十三年十二月河南消  
防組小頭下山田部長代理に任命せられ現任中、大正十  
四年四月河南村會議員に當選現職中

河南村二九六番地

### 秋山 欽治君

明治二年十二月二十六日を以て高遠藩士秋山富士藏氏の二男に生る  
明治十九年十二月高遠學校に於て小學高等科全科卒業の第一期なり後二ヶ年河南小學校授業生を勤務後又中  
野保に就き修學し明治二十四年五月檢定試験により長野縣下尋常小學校本科正教員の免許狀を受く  
同年十月長野市尋常小學校訓導となり翌年辭して上伊那郡立高等小學校代用教員奉職後中澤、高遠、富縣、  
伊那町、美和小學校訓導奉職し四十二年功加俸年額二十四圓支給せらる大正七年四月南向學校に、九年四  
月河南學校に奉職しが十年十月病氣の爲退職す  
初等教育に従事すること通計三十餘年退隱料三百八十七圓を支給せらる身體健康快復するや農蠶を勵みつ  
あり、目下勝間區長、三峯生糸組合理事等の事務に執筆中  
長男民治君は明治三十一年六月出生し小學校の科程を終りて大同義塾を卒業し農業に従事す、大正十年河南  
村産業統計調査員に、十二年村農會總代に、十四年一月共信農家組合長に、五月村役場書記に、九月國勢調  
査員となり現在此等の職務に盡瘁中なり

河南村

小松兼五郎君

萬延元年五月二十三日を以て舊上山田村西村與八氏の三男に生る

明治二十年九月舊小原村小松作平氏の養子となる

明治三十五年一月一日小原區長に就任、是迄集會所なく不便なりしを感じ區民に謀り集會所守德館を新築す

明治四十年四月五日河南村會議員に當選就職同四十三年四月四日退職、其間學校の増築に關し新築委員として工事に關係す

大正五年本村清福寺本堂再建費勸募委員長に擧げられ専ら其勸募に従ひ遂に壹万有餘圓の寄附金を得て再建の基礎を作れり

河南村一二三番地

湯澤勇藏君



明治二十八年四月九日を以て生る

大正八年二月十二日より同十年三月三十一日迄河南村役場書記勤務、大正十年一月より同十二年十二月迄上伊那郡聯合青年會代議員勤務、大正十二年一月より同一年十二月迄上伊那郡聯合青年會評議員勤務、大正十四年一月より同十二月迄河南村青年會長勤務、大正十四年國勢調査員を命ぜらる、大正十四年一月二十日上伊那郡河南村收入役就職目下現職中、大正十年六月十日より現今に至る産業統計調査員目下現職中

河南村

鹽原藤三郎君

明治十七年三月七日を以て生る

明治四十一年八月より四十二年三月迄河南村役場書記勤務

同四十二年三月より大正十一年迄河南信用購買組合長勤務

同四十五年小原區長勤務

大正二年三月より同三年二月迄河南村收入役勤務

同四年一月より同年十二月迄河南青年會長勤務

大正四年三月より同年十一月迄河南消防組部長勤務

同四年十一月より同十年十一月迄河南消防組頭勤務

同五年四月より同七年九月まで河南村助役勤務

同六年四月より同十年三月まで河南村會議員務務

同六年四月より三峯生糸信用販賣組台理事並に監事に就職現任中

同十年より上伊那畜産組合副組台長現職中

同十一年産業組合上伊那郡部會議員就職

同十一年一月十日上伊那郡部會議員に補缺當選、同十二年三月郡制廢止に至るまで勤務

同十二年三月河南村長に當選就職現に其職に在り、同十三年三月河南村農會長に就職現職中、同年河南村聯合保安組合長に就職現職中、同年上伊那東部公益調査會副會長に當選現職中

尙在郷軍人分會を始め村及區の公共事務に執筆したること少からず

河南村大字上山田一五二番地

### 平 岩 重 喜 君



明治十九年十一月五日を以て河南村大字上山田小松家に生る

同家は平重盛公の後裔と稱し五十五代に當る奈良治氏の二男なり明治三十七年六月平岩家に入り養父金太郎の後を継ぎ農業に従事す

明治四十五年二月八日より大正三年一月二十日まで河南村役場書記勤務

大正四年四月十一日より同五年三月五日まで河南村收入役勤務

大正五年一月より同六年十二月まで河南青年會長勤務

大正七年三月より三峯生糸信用販賣組合理事就職目下現職中

大正九年第一回國勢調査員勤務

大正十年六月より大正十四年六月まで産業統計調査員勤務

大正十二年一月より河南消防組小頭

同十三年十二月一日上山田部長任命目下現職中

大正十二年四月より村農會總代に同十四年二月より村農會副會長に就職目下現職中

大正十三年九月六日より河南村助役就職目下現職中

大正十三年十一月四日より河南村聯合衛生組台長就職目下現職中

大正十三年十二月より河南村保安組合副長就職目下現職中

其他部落有財産統一委員等公共の事務に執筆せること尠からず

美和村大字非持一五六番地

### 池 上 嘉 藏 君

明治八年八月十八日を以て生る

明治三十二年三月九日美和消防組小頭を命せらる

同三十四年八月九日同村臨時衛生委員當選

同三十五年三月三日美和消防組非持部長を命せらる

同三十七年四月二十四日同村農事督勵委員に選任

同三十七年十月二十六日同村体育會評議員當選

同三十八年三月三十一日美和村産業督勵委員に選任

同三十八年十二月二十四日美和村農會評議員當選

同三十九年十二月二十八日同村大字非持營林取締委員當選

同四十年七月十四日同村學校新築調査委員當選

同四十年十二月二十八日同村第一區長代理非持山區長當選

同四十一年三月三日同村体育會評議員當選

同四十一年三月十四日同村農會評議員當選

同四十二年十二月五日美和農工補習學校生徒募集獎勵

委員を囑託せらる

同四十三年四月十八日美和村村會議員當選

大正二年二月一日同村獎學委員を囑託せらる

同二年十月十日上伊那郡農會より大正二年度秋蒔公正

取引所評價委員を囑託せらる

同二年十二月二十五日統計調査委員を囑託せらる

同七年公有林野統一委員當選

同九年二月二十七日美和村道調査委員を囑託せらる

大正九年三月十八日美和村助役に當選

同九年國勢調査美和村係員を命せらる

同十年一月十九日美和村村長當選

同十年三月十三日美和青年會名譽會員に推薦せらる

同十年三月二十六日愛國婦人會上伊那郡幹事部委員を囑託せらる

同十年七月二十五日日本赤十字社美和村分區委員を囑託せらる

同十年十二月一日日本郡蠶糸改良同盟會相談役を囑託せらる

同十二年美和村農會總代兼評議員當選

池上菊彌君

慶應二年十月二日を以て生る

明治三十一年三月より同三十三年二月まで美和村役場書記勤務

明治三十四年四月美和村會議員に當選同四十年四月迄勤務

同三十七年四月農事督勵委員を囑託せらる

同三十八年一月美和消防組非持部長を命せられ同四十四年二月迄勤務

明治三十八年二月美和村助役に就職同四十二年二月退職、其間同三十八年二月より三十九年二月迄同村収入役を兼務せり

同三十八年十二月美和村農會評議員に當選同四十一年三月及四十四年三月大正三年三月の改選に再選同六年三月迄十二ヶ年勤務

同四十二年一月美和村第一區長代理者に當選、同四十四年十二月退職

同四十二年十二月上伊那郡農會より農事諮問會員を囑託せらる、同四十四年五月再び美和村助役に就職、大正四年四月迄勤務、大正四年九月美和消防組頭を命せられ、同九年四月迄勤務

大正五年一月美和村第一區長に當選同六年十二月迄勤務、大正十年三月美和村青年會名譽會員に推薦せらる

同十一年四月美和村長に當選就職、同十五年四月滿期迄勤務  
尙小学校建築費明石二十七八年賦役従軍者家族扶助寄附其他寄附金をなし賞狀謝狀を受くること數回あり

池上直吉君

明治十三年八月十日を以て生る

明治四十三年十月美和村役場書記に選任せらる

大正二年三月美和村第二區長に當選

大正四年六月美和村役場收入役に選任せらる

大正六年四月美和村會議員に當選同十年滿期退職

大正六年五月高遠町美和村組合會議員に當選

同年同月伊那里村美和村組合會議員に當選

大正八年四月美和村助役に當選就職

大正九年七月國勢調査員を命せらる

大正十二年三月美和村農會副會長に當選す

美和村大字非持

池上留太郎君

明治九年十月十五日を以て生る

明治三十九年八月より四十年四月迄美和村役場書記勤務

明治四十一年十二月より四十二年十二月迄美和村第一區長代理者勤務

大正二年四月より大正六年四月迄美和村會議員勤務

大正六年三月より大正八年三月迄美和村収入役勤務

美和村大字非持一六一七番地

池上傳八君

明治十三年五月五日を以て生る

大正十二年農會法改正當時美和村農會總代に當選現職中

大正十四年四月美和村會議員に當選現職中



美和村大字非持二五六四番地

池上延秋君

明治十一年八月十一日を以て生る

明治四十一年一月二十日營林取締委員に當選

大正三年四月九日美和消防組小頭任命

同六年六月二日同組非持山部長に補せらる

同八年十二月二十七日日本村第二區長代理に當選

同十年七月二十九日同第二區長に當選

同十年十月二十日美和村農會理事囑託

同十二年九月二十日縣會議員選舉美和村投票所立會人に選任せらる

同十三年四月一日縣稅戶數割資力調査委員に當選

同十四年四月十九日日本村々會議員に當選現任中

同十四年五月五日縣稅戶數割資力調査委員當選

同十五年三月本村役場建築專務委員當選

同十五年三月二十七日伊那里美和組合會議員當選

大正五年十二月二十日長野縣警察部長より功勞證書附與せらる

大正二年十二月十八日上伊那消防同盟會より賞牌授與さる

美和消防組より表彰六回を受く

美和村一三五番地

池上岩治郎君

明治八年六月一日を以て生る

明治四十四年十二月より大正二年十二月迄美和村第二區長代理者勤務

大正二年十二月より大正四年十二月迄美和村第二區長勤務

大正十年四月より同十四年四月迄美和村會議員勤務

美和村八四番地

伊藤繁三郎君

明治九年三月十五日を以て生る  
 明治三十五年一月より同三十七年四月迄美和村役場書記勤務  
 明治四十四年二月より大正二年十二月迄美和消防組非持部長勤務  
 大正六年四月より同十年四月迄美和村村會議員勤務  
 大正十二三年度美和村第一區長を勤務  
 大正九年より今日に至る河南村三峯生糸販賣組合理事を勤務  
 大正三年より同八年迄美和信用購買組合理事勤務  
 大正九年より今日に至る美和信用購買組合理事を勤む  
 明治三十四年赤痢病流行の際豫防消毒に従事し職務勉勵の廉により本縣より表彰せらる  
 大正十一年美和尋常高等小學校奉安殿建築費及備品購入費中へ金壹百圓寄附に付本縣知事より表彰せらる

美和村

伊藤朋衛君

明治二十二年七月五日を以て生る  
 明治三十六年三月高遠尋常高等小學校卒業  
 明治三十七年四月一日長野縣立諏訪中學校入學、同四十二年三月十三日同校卒業  
 同四十二年十二月一日陸軍士官候補生として歩兵第三十四聯隊へ入隊、同四十三年十二月一日陸軍士官學校入校、同四十五年五月二十八日同校卒業  
 明治四十五年五月三十日陸軍見習士官  
 大正元年陸軍歩兵少尉に任官  
 同二年二月二十日叙正八位  
 同三年十月四日日獨戰爭(青島)に出征同十二月一日凱旋  
 同四年十一月七日戰役の功により勳六等に叙し單光旭日章及一時賜金從軍記章授與せらる  
 同四年十一月十日大禮記念章を授與せらる  
 同五年四月二十日任陸軍歩兵中尉  
 同年六月十日叙從七位

同八年十二月十五日世界戰捷記念章下賜  
 同九年十月九日支那間島暴徒鎮壓の爲め出征朝鮮會寧出發、同年十二月十四日朝鮮羅南歸着  
 同九年十二月二十五日右事件の功に依り勳五等に叙し瑞寶章及一時賜金從軍記章下賜  
 同十年七月十一日叙正七位  
 同十一年四月一日任陸軍歩兵大尉  
 歩兵第七十三聯隊中隊長  
 十二年八月六日待命  
 同九月一日豫備役  
 同十二年十月三十日叙從六位  
 郷里即ち現住所にて家督相續農業に従事す  
 同十三年三月十日在郷軍人會美和村分會長  
 同十四年五月二十日上伊那郡聯合分會副長に當選

美和村大字非持一二三六番地

伊藤政喜君

明治十九年一月五日を以て生る  
 明治三十九年上伊那郡役所雇書記となる  
 明治四十一年美和村役場書記となる  
 明治四十三年縣道調査委員となる  
 明治四十四年収入役代理となる  
 大正元年上伊那郡設苗圃看守となる  
 大正六年陋習矯弊委員となる  
 大正七年有限責任上伊那東部生糸組合理事となる  
 大正九年非持區長代理者となる  
 大正十年産業統計調査委員となる  
 大正十四年四月美和村會議員に當選現任中  
 大正十四年國勢調査委員となる  
 大正十五年村役場建築委員となる

美和村三五〇五番地

伊藤兼治郎君

明治六年十月を以て生る  
 明治四十年美和村非持山區衛生委員長勤務  
 大正六年及大正十年美和村非持山區總代二期勤務  
 大正八年より二ヶ年美和村非持山區長勤務  
 大正十年より四ヶ年美和村會議員勤務  
 大正十一年美和村部落有財産統一整理委員勤務  
 大正十五年美和信用購買組合監事勤務

市ノ羽金作君

明治十二年四月十日を以て三義村に生る  
尋常小學校卒業の後補習科修業

明治三十三年六月一日近衛輜重兵大隊第一中隊に編入せられ、八月三十一日在營満期に付除隊  
同三十七年二月十二日充員召集として近衛輜重兵大隊へ召集、同日第三糧食縦列に編入せられ、出征の爲め  
東京出發廣島着、三月十七日宇品出帆、同月二十三日朝鮮鎮南浦に上陸、同地出發平壤、安洲、定洲、西林  
鎮、批峴面場里を経て五月一日鴨綠江及九連城の總攻撃に従ふ、爾後安東縣、湯出城を経て五月十一日高麗  
門着同地駐軍、六月二十三日同地出發雞冠山、沙子崗を経て同月二十八日灣瀧地着同地駐軍、七月二十日教  
家堡子に轉宿同月三十一日同地出發様子嶺附近の攻撃に参加、八月一日よりマクメンサン駐軍、同月二十四  
日より九月五日に亘る二道勾、ヤユチ及遼陽附近の戦闘に参加、同五日湯河沿に駐軍、同十九日爲米庄に轉  
宿十月七日より十五日に亘る沙河の戦闘に参加、同十五日より沈家勾に駐軍、三十八年二月下旬より三月中  
旬に亘る奉天附近の會戦に参加、三十九年一月近衛輜重兵大隊に編入同月十六日召集解除  
恩賜酒肴料として金貳圓五拾錢下賜  
戰役の功に依り勳八等白色桐葉章及金貳百圓並に従軍記章を賜はる  
大正十三年一月黒河内區長代理に就職  
大正十四年一月黒河内區長に就職現職中

西村幸雄君

慶應元年七月十六日を以て生る

明治十八年十一月上伊那郡黒河内外六ヶ村戸長役場筆生拜命

明治二十二年五月美和村書記に當選就職

明治二十六年五月より三十年五月迄美和村收入役勤務

明治三十年五月收入役再選、三十二年五月退任

明治三十二年十二月美和消防組頭拜命、同三十五年十二月辞任

同三十二年五月美和村助役に當選就職、三十六年五月満期再選三十七年五月辞職

同三十八年十二月美和村第二區長に當選、三十九年十二月満期退職

同四十年四月美和村長に當選就職、四十四年四月満期及大正四年五月同再選、大正五年十二月辞職

大正六年四月美和村會議員當選、大正十年四月満期

大正十年九月美和村學務委員當選、十四年九月満期

美和村大字溝口一一五三番地

西村與兵衛君

明治二十年九月十三日を以て生る

大正十四年四月美和村會議員に當選現職中

美和村四一七番地

大羽銀十君

明治三十二年美和消防組小頭拜命

明治三十六年黒河内區黒川組耕地總代當選

明治三十八年黒河内區長代理勤務

明治四十一年同區長代理勤務

明治四十二年より同四十三年迄黒河内區長勤務

明治四十三年美和消防組黒河内部長任命

大正十一年四月美和村會議員に當選

大正十四年國勢調査員(内閣任命)

産業統計調査員現職中

美和村大字溝口一四七三番地

高見徳三郎君

文久二年十月十八日を以て生る

明治三十二年高遠町外二ヶ村組合里道改修仕立人就職

明治三十六年美和村第三區長就職

同年美和村溝口衛生組合副長就職

明治四十年美和村收入役就職

同年日本赤十字社上伊那委員部美和村分區收入補助委員就職

同四十二年美和信用購買販賣組合理事就職

明治四十四年美和村收入役再選就職

大正六年美和村第三區長就職

大正十年美和村會議員就職同十四年滿期

同美和村會計検査員就職

二期收入役勤績の成績を施表せられ美和村より賞状及紀念品を受く

又美和信用組合に於ける功勞に依り賞状及紀念品を受け上伊那産業組合より賞品賞状を受く

君は現今家督を長男甚左衛門氏に譲り閑日月を送りつゝあり尙次男俊衛君は神戸高等商船學校に在學中なり

と云ふ

美和村大字溝口一五五〇番地

高見兼松君

明治三年二月一日を以て生る

明治三十九年十二月二十八日美和村第三區長に就職

明治四十年四月十八日美和村會議員に當選

明治四十二年三月二十日美和消防組溝口部長拜命

大正二年四月十九日美和村會議員に當選

大正三年一月三十日美和信用購買組合理事に當選引續き重任目下現職中

大正八年七月卅一日三峯生糸信用販賣組合理事に當選

大正十一年十月より右組合専務理事に就任

大正十二年十二月辭職

大正十二年十二月十四日美和村收入役に就職

大正十五年四月十六日美和村長に就職現任中

美和村大字溝口一三二六番地  
判任官二等四級 美和郵便局長 中山文七君



明治十年十月十五日を以て美篤村生る  
明治三十一年十二月より同三十三年十一月迄信濃銀行  
伊那支店勤務  
明治卅七年五月卅一日美篤村土地名寄帳整理委員を囑

託せらる  
明治四十四年三月廿六日三等郵便局長に任じ美和郵便  
局長を命せらる  
同年三月三十日上伊那郡美和村貯金奨励委員を囑託さ  
る  
家業は先代以來酒類醸造業なり  
大正五年美和小學校教育費中へ金百五拾圓寄附せらる  
大正八年金百圓 同上

美和村大字黒河内七三五番地

中山 伊十君

明治十七年九月十七日を以て生る  
明治四十五年四月美和村書記に選任せられ、大正三年三月退職す  
大正五年三月美和村第四區長代理者當選就職大正六年十二月退職  
大正七年一月美和村第四區長就職大正八年十二月退職す  
大正十年四月十九日美和村會議員に當選就職大正十四年四月退任  
大正十年七月美和村聯合衛生組合副長に就職同十四年七月満期退職  
大正十四年一月美和信用購買組合理事就職現任中

美和村大字溝口

中山源左工門君

明治九年二月十二日を以て生る

大正十三年一月美和村第三區長代理當選二ヶ年勤務

大正十四年四月美和村會議員當選現職中

美和村

中山今朝十君

大正二年十二月廿六日第一區長代理者當選

同六年四月美和村會議員に當選

同九年三月三十日美和村聯合衛生組合長に當選

同九年十二月廿二日第一區長に當選

同十一年六月廿八日長野縣臨時保健衛生調査委員囑託せらる

同十二年美和村農會總代當選現任中

同十三年一月美和信用組合理事に當選現任中



美和村四六番地  
故 中山吉十郎君

明治五年四月十日を以て生る

明治卅四年四月より同四十年四月迄美和村會議員勤務

同三十八年十二月より同三十九年十二月迄美和村第一區長勤務

同四十二年四月より同四十四年三月迄美和村助役勤務

大正六年四月より大正十年四月迄美和村會議員勤務

大正十二年五月より同十四年十月迄學務委員勤務

大正十二年農會令改正當時美和村農會總代及同評議員並上伊那郡農會豫備議員に當選

明治四十年美和信用購買組合創立の際理事に當選爾來勤績

大正七年より同組合長に就職、大正十年病氣辞任同十四年十月死去

美和村二一〇二番地

埋 橋 朝 規 君

明治七年二月九日を以て生る

明治二十七年二月東京平田盛胤の門に入り、國史國文

國語學修業、師其精勵を賞し故篤胤翁の眞筆を授け、

名義の胤字を許して胤弘と名乗らしむ、後又渡邊重石

丸、三木五百枝、鈴木重嶺諸氏に就き、漢籍、律令及

歌道を學ぶ、同三十一年四月東京國語傳習所卒業、同

年六月皇典講究所の學階三等司業を得、同四十三年

十月祭式師範科を修了し、一等司業を授與せらる

明治十九年四月より廿二年五月迄溝口學校授業生勤務

同廿九年より卅一年迄東京神田神社雜司及會計掛を勤

め、歸國後靖進會を組織し、専ら農村風俗の改良子弟

の教養に勤む

同卅六年八月中箕輪村郷社箕輪南宮社社司に補せらる

同年十月美和村溝口熱田神社社掌に兼補せらる

同四十三年三月長野縣神職會議所講師を命ぜらる

同四十五年三月郡支所幹事及上伊那招魂社社掌を囑託

せらる

大正二年四月長藤村栗田五郎姫社及黒澤鹿島社社掌に  
兼補せらる

同三年八月三義村山室神社荆口寶山神社、芝平諏訪社

々掌に兼補せらる

同四年三月郡支所幹事補を命ぜらる

同七年四月長藤村中村諏訪社社掌に兼補せらる

同十二年三月上伊那郡選出長野縣神社協會代議員に當

選就職

同年七月美和村方面委員を囑託せられ、爾來社會事業

に貢献せられつゝあり

同家は代代神官にして専ら斯道の向上發展を謀り、傍

ら文學に心を委ね子弟の教育に努む、二男二女あり長

男朝賢君は中等の課程を卒へ國學院大學に入學、長女

美代子は伊那高女四年、二男二女共に小學の課程にあ

り夫人武良子とも一家六人、極めて圓滿の家庭をなせ

りと云ふ

明治三十一年神田神社より金品授與

大正七年長野縣より木杯下賜

大正十年箕輪南宮社より薄端花瓶寄贈

美和村大字黒河内  
黒河内友太郎君

慶應三年十二月二十三日を以て生る

明治二十一年一月より同二十二年一月迄舊黒河内村大總代勤務滿期退職

明治二十二年三月より美和村圖調製掛大字黒河内分主任勤務同二十三年五月迄に完了上申濟

明治二十六年五月より同二十七年五月迄美和村書記勤務

明治二十八年三月美和村會議員に當選

同三十四年及同四十年再選大正二年四月迄繼續勤務

大正十四年四月美和村會議員に當選現職中

明治三十七年十二月より同三十八年十二月迄美和村第四區長勤務

明治四十四年四月より大正四年四月迄學務委員勤務

大正六年一月より同十年一月迄美和村長勤務滿期退職

大正八年三月より同十年一月迄美和村農會長勤務

大正十二年二月美和村農會總代當選

大正十二年三月より美和村農會評議員當選現任中、大正十二年三月上伊那郡農會議員に當選現任中

美和村三三〇番地

黒河内友市君

明治二年五月八日を以て生る

明治十五年十月簡易小學全科卒業

明治十五年十一月より明治十六年十二月迄高遠町教育家柿木門盈氏に就き漢學を修む

同十六年一月より黒河内學校授業生拜命

同二十年五月黒河内村外六ヶ村戸長役場筆生拜命

同二十一年六月土地台帳整理事務擔任拜命

同二十二年一月美和村黒河内區長に當選就職

同二十七年三月美和村書記に當選就職滿四ヶ年勤務

同三十二年四月美和消防組小頭拜命就職

同三十三年一月美和消防組頭代理拜命就職

同三十七年五月美和消防組黒河内部長拜命就職

同四十三年四月村會議員に當選就職四ヶ年勤務

同四十年一月村社八幡社氏子總代に當選三ヶ年勤務滿期退職

大正二年一月村社八幡社氏子總代に當選三ヶ年勤務滿期

大正五年一月村社八幡社氏子總代に再選三ヶ年勤務滿期

大正八年一月村社八幡社氏子總代再選三ヶ年勤務滿期

大正十一年一月村社八幡社氏子總代に再選三ヶ年勤務滿期

以上繼續十二ヶ年間勤務

大正十一年十二月美和村第四區(大字黒河内)區長に當選就職美和村助役に當選したるに依り退職

大正十二年十月三十日美和村助役に當選就職大正十五年四月二十四日辭職

美和村大字黒河内  
黒河内三七君

安政元年十二月十五日を以て中澤村に生る  
 明治二十三年四月十八日中澤村書記就任同二十五年四月辞任  
 明治三十四年六月美和村傳染病豫防委員當選  
 明治三十五年美和村隔離病舎新築土木委員當選  
 同三十五年五月美和消防組小頭拜命  
 同三十七年三月美和村書記就任同三十八年四月辞職  
 同三十九年十二月美和村第四區長代理者當選  
 大正二年一月美和村第四區長當選同三年十二月滿期  
 大正六年四月美和村々會議員當選同十年四月滿期  
 大正六年十月美和村伊那里村組合會議員當選  
 大正六年十月美和村高遠町組合會議員當選  
 大正六年五月美和村聯合衛生組合副長當選  
 大正十年九月美和村學務委員當選同十四年九月滿期  
 大正十三年一月美和村第四區長當選同十二月辞職

美和村大字黒河内二七九番地

黒河内保君

明治二十六年三月二十九日を以て生る  
 大正十四年四月美和村會議員に當選現職中

美和村大字黒河内七五一番地

### 久保田作太郎君

明治十七年九月十五日を以て生る

明治三十八年二月補充召集として歩兵第十五聯隊補充大隊へ入隊

同年九月第十五師團衛生隊へ轉屬出征、清國馬義屯舎營病院補助勤務に服す同年十一月凱旋す

大正六年一月美和村役場書記任命大正七年四月辭職

大正九年一月黒河内養蠶組合長當選大正十三年十二月辭職

大正十一年十二月美和消防組黒河内部長任命大正十三年一月辭職

大正十二年三月美和村農會總代當選現職中

大正十三年七月三峯生糸信用販賣組合理事當選現職中

大正十三年十二月三峯生糸信用販賣組專務理事當選大正十四年三月辭職

明治三十七八年戰役の功に依り勳八等瑞寶章及從軍記章を授與せらる

大正七年十二月上伊那消防同盟會より賞狀及賞牌を受く

大正十一年十二月長野縣警務長より功勞證書を受く

大正十二年一月美和消防組より二十ヶ年勤績賞狀及賞品受領

美和村太平山選佛場主法王使

### 松田龍曉君



明治五年一月二十二日伊那富村に生る

同郡河南村清福寺に得度し山梨縣北巨摩郡圓野村龍珠院住職新井大法師に嗣法す是より先明治二十八年八月十六日富山縣越中國射水郡氷見町光禪寺住尾崎一如師に隨待證明狀を得

明治三十三年三月二十五日東京悉曇音韻學校卒業

同年五月十五日悉曇十八章檢定員に命せらる

同三十七年五月二十五日山梨縣西山梨郡能泉村自性院住職となる

同年八月十八日日本寺北巨摩郡宮本村阿羅漢寺に住名を移し前住院の兼務をなす

同三十九年一月十五日征露役中第七師團へ冊誌講納に付同師團より謝狀を贈らる

同三十九年十二月二十九日日本郡美和村常福寺に移る

是より先明治三十八年一月四日附認可山梨法王の光、月刊雜誌發行主筆となり、後休刊と同時に釋迦の光明雜誌を發行せり

常福寺は古くは眞言宗開山は吞海阿闍梨にして開山授受の獨鈷三鈷法衣等を寺の丑寅に奉安し、此處を三鈷山と稱し、後ち三山又は御山と稱す、天正十六年故あつて曹洞宗河南村龍勝寺末となり、來芝充胤禪師を開山に請す、寶物は梵本大般若經七軸及御水尾天皇御宸翰と吞海阿闍梨所持の獨鈷五鈷三鈷其他開山自作の御佛等數品なりと云ふ

美和村一二二番地

北原繁太郎君

明治元年十二月十三日を以て生る

明治三十七年より同四十年迄四ヶ年美和村會議員勤務

大正二年より同五年迄四ヶ年美和村會議員勤務

大正十年より同十一年迄二ヶ年學務委員勤務

大正十三年聯合衛生組合長となり現職中

美和村二四七六番地

北原悦太君

明治二十三年一月七日を以て生る

大正十一年十二月第二區長代理當選

大正十二年十二月再び第二區長當選

大正十二年三月農會總代選舉立會人となる

大正十四年四月美和村會議員當選現任中

大正十四年九月第二回國勢調査員任命

美和村一四一番地

北原武重君

明治六年十月二十三日を以て生る

明治二十九年三月より美和村役場書記勤務

明治三十二年十二月より美和村第一區長代理者勤務

明治四十三年三月より美和消防組非持山部長勤務

明治四十三年四月より美和村會議員勤務

大正九年一月より美和聯合衛生組合副長勤務

美和村大字非持二六四九番地

北原房太郎君

慶應二年八月十日を以て生る

明治三十六年十二月より同三十七年十二月迄美和村第一區長勤務

大正十年四月より同十四年四月迄美和村會議員勤務

美和村大字溝口

北島傳治君

明治三年六月二十八日を以て生る

大正十三年四月美和村會議員當選現職中

美和村大字溝口  
功七級勳八等 宮下留七君

明治十五年十月十日を以て生る

明治三十八年三月十七日任陸軍歩兵伍長

明治四十四年三月十日より帝國在郷軍人會美和村分會長二ヶ年勤務

大正四年一月五日より美和消防組溝口部長五ヶ年勤務

大正八年三月十日より帝國在郷軍人會美和村分會長二ヶ年勤務

大正八年十二月二十六日美和村第三區長代理二ヶ年勤務

大正九年四月七日美和消防組頭五ヶ年六ヶ月勤務

大正十年三月十七日美和村助役二ヶ年七ヶ月勤務

大正十三年十二月二十六日美和村第三區長現職中

大正十二年三月十六日より美和村農會長現職中

大正十四年四月十九日美和村會議員當選現職中

大正十四年十二月二日より美和村學務委員現職中

美和信用購買組合理事現職中

三峯生糸信用組合理事現職中

株式會社上伊那銀行美和出張所主任現職中

明治三十九年四月一日明治三十七八年戰役の功に依り功七級金鵄勳章並に年金百圓及勳八等白色桐葉章拜授

美和村大字非持  
醫師關口廣司君

大正四年新潟醫學專門學校卒業

大正四年現住地に開業す

陸軍看護卒

美和小學校醫囑託

高遠電燈株式會社相談役

美和村大字黒河内

久保田朝太郎君

明治十六年十月二十日を以て生る

明治三十七年十月十九日補充召集の爲め野戦砲兵第十七聯隊補充中隊へ入隊

明治三十八年三月五日野戦砲兵第十七聯隊補充として出征

明治四十一年二月二十四日美和村役場書記に選任せらる

明治四十三年四月十九日美和村會議員に當選大正二年四月満期

大正元年十二月三十日美和村第四區長代理者に當選

大正三年十二月二十六日美和村第四區長に當選

大正七年一月二十七日美和消防組黒河内部長拜命

大正十年一月二十七日美和村收入役に選任せらる

大正十四年四月十九日美和村會議員に當選現職中



美和村大字非持  
中山亀太郎君

明治六年一月三日を以て生る

小學中等科卒業黒河内學校非持支校授業生勤務を命せらる

友誼會會長

農事同窓會々長

臨時衛生委員

營林取締委員

農事督勵委員

農軍團副團長

尙武會委員

消防組小頭

村會議員

第一回國勢調査委員等勤務

現に産業組合理事、區長代理、氏子總代、村農會總代、村農會評議員等の職に在り

伊那里村一七八番地

伊東正衛君

文久元年十月二日を以て生る

明治二十一年地圖調製に付製圖者の任務を負ひ同二十二年十一月調製済に依り解職

明治二十九年二月伊那里村杉島區長當選同三十一年一月退職

明治三十一年八月伊那里村役場書記に選任せられ同三十三年七月退職

同三十四年四月伊那里村會議員當選同三十八年四月退職

明治三十五年六月伊那里村助役に就職同三十七年三月退職

同四十三年四月伊那里村會議員に當選大正三年四月退職

大正二年十二月伊那里村學務委員就職同四年十二月退職

大正六年五月伊那里村長に就職同八年三月退職其間同村青年會長兼務

同九年伊那里村聯合衛生組合副長勤務

同十一年八月五日上伊那郡會議員補欠當選同十二年三月郡制廢止に付解職

伊那里村四番地

伊東嘉政君

明治二十六年八月二十五日を以て生る  
 大正五年四月伊那里消防組杉島部小頭に任命、同十年四月辞職  
 大正八年五月伊那里村役場書記に任命、同九年四月辞職  
 大正十年六月産業統計調査員に選任、同十三年十二月辞職  
 大正十一年三月伊那里青年會長に當選、同十二年三月滿期退職  
 大正十三年十二月伊那里村大字杉島區長に當選現職に在り  
 大正十四年四月伊那里村會議員に當選現職に在り  
 大正十四年四月縣稅戶數割調査員に選任せられ現職に在り

伊那里村大字杉島六〇一番地

伊東友十君

元治元年八月十日を以て生る  
 明治三十七年一月伊那里村尙武支會委員當選同四十年十二月滿期  
 明治三十七年十月水防巡視掛被命  
 同三十八年一月伊那里村農會理事及産業督勵組長公有林野整理委員當選同四十一年十二月解任  
 同三十八年十二月十四日伊那里村消防小頭任命同三十九年六月辭職  
 同三十九年一月杉島區報恩寺檀徒總代當選同四十一年十二月滿期  
 同四十一年十月伊那里尋常小學校改築委員囑託せらる  
 同四十二年杉島橋架設委員當選  
 同四十四年一月杉島區長代理者當選同年十二月辭職  
 同四十五年一月杉島區諏訪社氏子總代當選大正三年十二月滿期  
 大正五年一月杉島區長當選同年十二月辭職  
 大正六年八月伊那里聯合衛生組合副長認可同十年三月

辭職

大正七年一月杉島區諏訪社氏子總代當選同九年十二月滿期  
 大正九年七月二十日第一回國勢調査員拜命  
 大正十年四月伊那里村收入役選任、大正十二年五月辭職  
 大正十年六月伊那里分區收入員囑託せらる  
 大正十一年五月伊那里村委員分區事務員囑託せらる  
 大正十二年一月伊那里村有林保護組合理事當選  
 大正十二年四月伊那里村有苗圃監督員囑託せらる、大正十四年四月辭任  
 大正十二年二月田本農事小組合長當選  
 大正十三年一月杉島區報恩寺檀徒總代當選大正十四年四月辭任  
 大正十三年六月主要食糧農産改良増殖督勵委員囑託せらる  
 大正十四年一月伊那里村尙武支會委員當選  
 大正十四年四月伊那里村會議員當選  
 同年四月十五日會計検査員當選

伊那里村一二六五番地

馬場豊太郎君

明治七年四月十四日を以て生る

大正四年十二月市野瀬區長に當選就職

大正十一年六月伊那里村收、役に選任せらる

大正十五年一月伊那里村助役に當選現職中

尙消防組小頭衛生組合長を初め其他公共の事務に執掌せる所尠ならず

伊那里村一二番地

西村銀彌君

万延元年八月二十日を以て生る

明治二十一年伊那里村中尾地圖調製委員囑託

明治三十三年二月伊那里村役場書記任命

同三十五年三月美和村伊那里村聯合品評會審査員囑託

同三十五年三月伊那里村中尾區長代理兼土木委員當選

同三十五年七月伊那里消防組小頭任命同三十七年三月

中尾部長に補せらる

同三十七年四月伊那里村會議員に當選同四十三年四月

滿期退職

同三十八年伊那里村農會理事に當選同四十一年三月滿

期退職

同三十九年伊那里村尙武會委員に當選同四十二年滿期

退職

同三十九年四月伊那里村産業督勵部中尾第二組長に當

選し同四十一年滿期退職す

同四十年四月伊那里村專任學務委員に當選同四十二年

退職す

同四十三年一月伊那里村尙武會幹事に當選し大正二年三月退職

同四十四年十二月伊那里村學林取締委員に當選大正二年二月退職す

大正二年一月伊那里村中尾區長當選同年十二月退職

同二年二月伊那里消防組頭被命大正四年退職

同二年美和村伊那里村組合會議員當選同三年伊那里村

助役就職

同年十二月伊那里村長就職

同三年十二月伊那里青年會長兼任同美和村伊那里村組

合工事管理者兼任

大正四年十一月十日大禮記念章を授與せらる

大正九年明治神宮外苑經營事業に付通常會員に列し奉

贊章を授與せらる

大正三年十二月上伊那郡消防同盟會より表彰せらる

大正五年一月赤十字社會員増募に付日本赤十字社長野

支部及上伊那郡委員部より表彰せらる

伊那里村大字中尾一〇二七番地  
西村茂吉君

明治二十三年十一月三十日を以て生る  
 明治四十三年十二月歩兵第六十聯隊に入營上等兵昇進褒賞休暇十二日善行證書附與せらる  
 大正二年十二月伊那里村消防組小頭並に部長勤務  
 大正四年一月伊那里村青年會中尾支部長勤務  
 大正六年六月伊那里村役場書記任命  
 同年伊那里衛生組合副長勤務  
 大正五年伊那里村青年會幹事勤務  
 大正十年第一回國勢調査員勤務  
 大正九年伊那里村軍人分會長勤務  
 大正十年伊那里村會議員當選勤務  
 大正十四年伊那里村會議員再選現任中

伊那里村八九七番地

中村八百太郎君

明治六年三月五日を以て生る  
 明治三十一年村農會理事勤務  
 同三十三年伊那里村聯合衛生組合副長勤務  
 同三十六年伊那里村役場書記勤務  
 同三十八年伊那里村衛生組合長勤務  
 同年伊那里村消防小頭任命  
 同三十九年中尾區長勤務  
 同四十一年消防組部長代理を命ぜらる  
 同四十一年村農會評議員當選同四十四年再選  
 同四十二年伊那里村三部衛生組合長勤務  
 同四十四年より同四十四年迄上伊那產馬組合評議員勤務  
 大正元年より同五年迄上伊那產牛馬組合評議員勤務  
 大正二年伊那里村會議員に當選  
 同三年村農會理事に選任せらる  
 同四年美和村伊那里村組合會議員に當選  
 同五年中尾神社氏子總代當選  
 同六年村農會理事に選任せらる

同年伊那里村三部衛生組合長當選  
 同六年上伊那畜產組合會議員當選爾來同十五年迄勤績  
 同九年伊那里村農會副會長當選  
 同年伊那里村收入役に選任せらる  
 大正十年伊那里村助役に當選就職  
 同十二年中尾神社氏子總代當選  
 同年三月伊那里村農會總代當選  
 同年三月同村農會評議員當選  
 同年同月上伊那郡農會議員に當選  
 同年伊那里村土木委員に當選  
 同十四年伊那里村聯合衛生組合副長に當選  
 同年同村聯合安全組合長當選  
 同年伊那里消防組頭に任命せらる  
 其他村尙武會幹事たること三回、山林植栽委員たること五回、村是調査委員、寺院檀徒總代、村有林野整理委員、學林取締委員、村農會決算委員、同村臨時會計検査員等を勤務し、尙武會幹事、山林植栽委員、圓通寺檀徒總代理任中なり

伊那里村大字中尾二七七番地

### 中村 數太郎君

明治十二年一月二十日を以て生る  
 明治四十一年より同四十三年迄伊那里村役場書記勤務  
 同四十五大正元年度中尾區長代理勤務  
 大正二年より同五年迄聯合衛生副長勤務  
 大正六年四月より同十年迄伊那里村會議員勤務  
 大正六年中尾區長勤務  
 大正六年より同八年迄伊那里消防組中尾部長勤務  
 大正九年より十二年迄伊那里村農會評議員勤務  
 大正九年より十二年迄學務委員勤務  
 大正十二年より伊那里村農會總代勤務  
 同年より伊那里村農會幹事勤務  
 大正十三年より同十四年中尾區長勤務

伊那里村二六七番地

### 小松 幸四郎君

明治二年四月七日を以て生る  
 明治二十九年四月伊那里村役場書記に選任せられ二ヶ年間勤務  
 同三十一年四月伊那里村會議員補缺選舉に當選  
 同三十四年四月再選同四十年四月迄勤務  
 同三十二年四月伊那里村浦衛生組合長に當選一年勤務  
 同三十二年四月同村傳染病豫防委員に當選  
 同三十二年十二月伊那里村農會評議員に當選  
 同三十三年八月同村農會理事に選任せらる  
 同三十四年傳染病發生に付臨時衛生委員勤務  
 同三十四年四月浦衛生組合長當選  
 同三十五年四月再選  
 同三十五年浦區長に當選  
 同年伊那里村學務委員及統計調査委員當選二年間勤務  
 同三十七年四月出征軍人家族救護會幹事に當選  
 同年十二月又浦衛生組合長に當選  
 同三十八年一月伊那里村農會評議員當選

同四十年三月伊那里村學務委員當選同年六月辭職  
 同年四月伊那里村助役に就職同四十三年一月辭職  
 同四十一年二月郡農會出席副代表者及村農會評議員に當選

同四十三年四月再び伊那里村會議員に當選  
 大正二年四月再選同六年迄勤務  
 同四十三年五月伊那里村長に當選就職大正三年五月滿期退職  
 同年七月宅地地價調査委員選舉人に當選  
 同四十四年二月伊那里村農會長に當選  
 大正八年二月迄三期九年間勤務  
 明治四十五年七月伊那里青年會長に當選  
 大正二年九月伊那里村美和村組合管理者に當選  
 同三年浦區長に當選  
 同四年十二月伊那里村學林取締委員當選  
 同五年八月伊那里村有林野整理委員當選  
 同九年三月上伊那郡農會議員に當選同十二年三月滿期  
 其他村及區の公共事務に絶えず執掌し縣知事郡長及警察署長赤十字社愛國婦人會等より賞狀及謝狀を受けたること尠からず

伊那里村二五一番地

勳八等 小松幾太郎君

明治七年六月八日を以て生る

明治二十七年徵兵として入營歩兵上等兵となる

同三十三年三月二十八日伊那里村書記に選任せらる

同三十四年四月六日伊那里消防組浦部長拜命

同三十五年六月二十四日伊那里村在郷軍人團長當選

同三十九年二月十九日同在郷軍人團長當選

大正元年十二月三十日伊那里村浦區長當選

大正二年四月六日伊那里村會議員當選同六年四月再選

同十年四月滿期

大正二年十月二十八日伊那里村美和村組合會議員當選

同三年二月二十五日伊那里村農會理事當選

同四年四月十九日伊那里村臨時會計検査委員當選

同四年十一月二十四日伊那里村聯合衛生組合副長當選

同四年十二月二十五日伊那里村學務委員當選

同五年二月二十二日伊那里村農會決算委員當選

同五年十二月二十五日伊那里村學務委員再選

同六年二月二十三日伊那里村農會評議員當選

三四八

同年同月同日伊那里村農會決算委員當選

同六年四月十八日伊那里村臨時會計検査委員當選

同六年十月二十八日伊那里村美和村組合會議員再選

同八年三月二十八日伊那里村長當選

同九年二月二十九日伊那里村農會會長當選

同年同月同日上伊那里村農會豫備評議員當選

同十年六月四日伊那里消防組頭拜命

同十一年三月二十日上伊那里消防同盟會評議員當選

同十二年三月二十五日伊那里村農會總代當選

明治三十年十一月二十九日善行證書を附與せらる

明治三十八年十一月三十日陸軍下士適任證書を附與せらる

明治三十九年四月一日明治三十七八年戰役の功に依り

勳八等白色桐葉章及金貳百圓を賜はる

大正十一年十月十七日長野縣聯合消防同盟會長より表

彰せられ徽章を授與せらる

大正十一年十二月二十九日上伊那里消防同盟會長より表

伊那里村

小松友金君

明治二十年四月二十五日を以て生る

明治四十三年三月伊那里村書記に選任せらる

大正四年三月伊那里青年會長に當選

大正五年十二月伊那里村消防組小頭任命

大正八年一月伊那里村尙武支會委員當選

大正八年十二月同浦區長當選就職同十年十二月退職

大正十二年三月伊那里村農會總代及評議員並に郡農會豫備議員當選

大正十三年一月伊那里村助役に就職

大正十四年四月伊那里村會議員に當選現任中

大正十五年一月伊那里村長就職現任中

明治四十四年十二月本縣警察部長より功勞證書授與せらる

明治四十四年十二月本縣警察部長より功勞證書授與せらる

三四九

伊那里村大字杉島一六四六番地

小松正二君

明治廿三年七月十八日を以て生る

大正七年一月四日より同八年五月三十日迄伊那里村役場書記勤務

大五十二年一月一日より同年十二月三十日迄杉島區長勤務

大正十二年四月一日伊那里村農會總代當選現任中

大正十二年四月一日より同十三年十二月五日迄伊那里村農會副會長勤務

大正十四年四月六日伊那里村會議員に當選現任中

大正十四年四月十五日伊那里村會計検査委員當選

伊那里村一九七番地

勤八等 宮下藤太郎君

明治二年二月十日を以て生る

明治二十二年三月本郡舊杉島村地圖調製掛當選

同二十八年四月同伊那里村役場書記に選任せらる

同三十一年四月同伊那里村會議員當選

同三十二年一月同伊那里消防組小頭任命

同三十三年三月同伊那里村農會理事當選

同三十四年一月同伊那里村土木委員當選

同三十四年四月同伊那里村農會副會長當選

同三十四年五月同伊那里消防組杉島部長任命

同三十五年一月同伊那里尙武支會幹事當選

同三十六年四月同伊那里村農會副會長再選

同三十六年九月上伊那郡農會伊那里村地方事務員に選

任せらる

同三十六年十二月同伊那里村杉島區長當選

同三十六年十二月同伊那里統計調査委員當選

同三十七年四月同伊那里村助役當選

同三十七年九月同伊那里村長當選

同四十年四月同伊那里村會議員當選

同三十八年四月同伊那里村農會長當選

同四十二年一月同伊那里村農會長再選

同四十二年一月同伊那里村杉島區長當選

大正九年九月同國勢調査委員任命

大正十年四月同伊那里村會議員當選

同十四年四月滿期

大正十四年四月同伊那里村學務委員當選現任中

伊那里村大字市野瀬一二九七番地

宮下英雄君

明治二十九年一月十六日を以て生る

長野縣立上伊那農業學校卒業

大正九年伊那里村青年會長勤務

同十三年より十四年迄市野瀬區長勤務

同十四年四月伊那里村會議員に當選現任中

先代嚴父爲吉君の略歴左の通り

明治四十四年及明治四十五大正元年度伊那里村聯合衛生組合副長勤務

同四十三年及大正四年市野瀬區長勤務

大正六年より七年迄伊那里村農會理事勤務

同六年四月伊那里村會議員に當選同十年四月滿期

同六年より同八年六月迄伊那里村助役勤務

同八年十月上伊那郡會議員に當選勤務中大正十一年五月二十一日病歿せらる

伊那里村一七四六番地

宮下藤吉郎君

明治二十一年一月二十一日を以て生る

伊那里村市野瀬區土木委員を勤むること二回

衛生組合役員に歴任

大正十二年伊那里村市野瀬區長に當選

大正十二年伊那里農會總代に當選

又村農會評議員に當選現任中

大正十四年四月伊那里村會議員に當選現任中



伊那里村大字市野瀬  
宮下市次郎君

明治十七年十一月十八日を以て生る

大正六年十一月伊那里消防組市野瀬部長拜命大正十年六月辭職

大正七年六月伊那里村役場書記に選任せられ大正九年四月辭職

大正十年五月伊那里聯合衛生組合副長當選大正十二年三月辭職

大正十年四月伊那里村々會議員當選大正十四年四月滿期

大正十二年三月村農會總代に當選現任中

大正十四年八月國勢調員任命

伊那里村

號幽畝宮下徳一郎君

明治十一年五月を以て生る

小學校卒業後笈を負ふて東都に遊學帝室技藝委員故荒木寛畝翁に師事し専ら日本畫を修め續て一家開拓の方針なりしも偶家庭の事情に依り故山に起居の身となり一時畫筆を棚に束ぬるの餘儀なきに至り爾來幾歲村事に執掌し區長村會議員助役村農會長等の職を経たるも境遇は轉一轉近時は又周圍の事情天與の藝術に向はしめ再び畫筆に親み時勢の潮流に掉し以て大に斯道に向つて成すあらんとしつゝありと云ふ

藤澤村

向山郡平君

三五六

明治四十年三月より同四十二年五月迄藤澤村書記勤務  
 明治四十二年より大正十二年三月迄藤澤村農會理事及同會代議員勤務  
 大正六年八月藤澤村是調査員當選  
 大正六年十月農商工統計調査員當選  
 大正六年より同七年迄藤澤村青年會副會長勤務  
 大正八年より九年迄臺養蠶組合長勤務  
 大正九年第一回國勢調査員を命せらる  
 大正八年より十二年迄藤澤消防組小頭並部長勤務  
 大正十二年藤澤消防組頭代理勤務  
 大正八年臺農事小組聯合會長勤務  
 大正十年より同十四年迄産業統計調査員勤務  
 大正十年より土地調査員勤務  
 大正十一年より同十三年三月迄主要食糧農産物改良増殖督勵委員勤務  
 大正十三年七月より大正十五年二月迄藤澤村收入役勤務  
 大正十四年より藤澤村信用購買組合信用評定委員勤務  
 大正十年より十三年迄藤澤村農會主催稻多收穫共進會審査員、同上苗代品評會審査員勤務

藤澤村三九九番地

藤澤助一郎君

明治八年十一月廿四日を以て生る  
 明治三十年六月より同三十二年三月迄藤澤村書記勤務  
 同三十五年二月より同三十七年三月迄藤澤村收入役勤務  
 同四十四年より大正二年迄藤澤消防組第一部長勤務  
 大正元年より同二年迄藤澤消防組頭代理勤務  
 大正元年より大正四年迄藤澤村農會副代表者勤務  
 大正八年より大正十年迄藤澤村農會評議委員勤務  
 大正九年一月より同十二月迄御堂垣外區長勤務  
 大正九年八月内閣より國勢調査員を命せらる  
 大正十年四月より大正十四年三月迄藤澤村會議員勤務、同上藤澤村常設學務委員勤務  
 大正十一年五月より藤澤村聯合衛生組合副長勤務中  
 大正十三年五月より同十四年十月迄藤澤村臨時土木委員勤務  
 大正十四年一月より同十五年一月迄藤澤村信用購買利用組合理事勤務  
 大正十四年七月藤澤村助役に當選現任中  
 大正十四年八月國勢調査員を命せらる  
 大正十五年一月藤澤信用購買利用組合信用評定委員勤務中

三五七

藤澤村

### 有賀幾太郎君

明治三十四年三月同志と謀り藤澤信用組合を設立し推されて組合長となり爾來數次の改選に再選引續き勤務現任中

同四十年十月上伊那郡會議員に當選同四十四年十月滿期退職

同四十一年産業組合郡部會設立せられ同會評議員に當選同四十四年三月迄勤務

同四十二年八月上伊那郡參事會員に補缺當選同四十四年十月滿期退職

明治四十四年三月産業組合郡部會副會長に當選大正九年五月迄引續き勤務

大正九年五月産業組合郡部會評議員に當選現職中

大正七年藤澤村及長藤村の有志と謀り上伊那生系販賣組合共同社を設立し推されて社長となり同八年株式會社に變更し又其社長となり爾來勤績現在に至る

其他村及部落の公共事務に執掌する所少からざれ共資料を得る能はざるを憾とす

藤澤村三二五番地

### 有賀榮三郎君

明治五年正月五日を以て生る

明治二十五年より同二十七年迄藤澤村役場書記勤務

明治三十一年藤澤村荒町區長勤務

同三十一年四月村會議員に當選六ヶ年勤務

同三十一年より四ヶ年藤澤村常設學務委員勤務

同年五月藤澤消防組小頭兼部長を命ぜらる

同三十二年村社貴船社氏子總代

同三十三年三月有限責任藤澤村信用購買組合創立せられ理事に當選爾來數次再選今日に及び勤績中

同三十三年五月藤澤村衛生組合長

同三十四年藤澤村荒町區長

同三十五年藤澤村常設學務委員となり四ヶ年勤務

同三十六年六月藤澤村助役に當選

同三十六年八月株式會社信濃銀行員となる

同三十八年藤澤村荒町區長

同三十九年村社貴船社氏子總代

同四十年荒町區長同四十四年村社貴船社氏子總代

同四十四年八月藤澤村消防組頭任命三ヶ年勤務

同四十四年十月上伊那郡會議員に當選

大正二年九月株式會社上伊那銀行藤澤出張所主任を囑託せられ十五年同所昇格支店長となる

大正二年十月藤澤村聯合衛生組合副長

同四年十月上伊那郡會議員に再選せらる

同四年上伊那郡參事會員に當選す

大正六年四月長野縣知事より衆議院議員總選舉に付上伊那郡開票立會人に選任せらる

大正六年藤澤村荒町區長當選

大正六年より大正十四年迄株式會社共同社理事勤務

大正六年六月伊那稅務署管内所得稅調查委員補充員に當選

大正八年七月郡立上伊那實科高等女學校建築調査委員となる

大正九年藤澤村外二ヶ村關係入會地分割整理全權委員に當選、大正十年三月藤澤村土木委員當選

大正十年四月藤澤村々會議員に當選、同年同月會計檢査立會人に當選勤績四ヶ年、大正十四年六月伊那稅務署管内所得稅調查委員第一補充員に當選

大正九年藤澤村外二ヶ村關係入會地分割整理全權委員に當選、大正十年三月藤澤村土木委員當選、大正十年四月藤澤村々會議員に當選、同年同月會計檢査立會人に當選勤績四ヶ年、大正十四年六月伊那稅務署管内所得稅調查委員第一補充員に當選

藤澤村三三二番地

### 秋山馬太郎君

明治八年一月十二日を以て生る  
 明治二十七年三月藤澤村書記當選就職  
 明治二十九年五月退職明治三十二年八月同村收入役當選就職同三十五年三月退職  
 明治三十六年十二月藤澤消防組第三部長拜命同四十二年三月退任  
 明治三十七年一月荒町區長當選就職同年十二月滿期退職  
 明治四十三年四月藤澤村會議員に當選就職大正二年三月滿期退職  
 明治四十四年一月荒町區長當選就職同年十二月滿期退職  
 大正三年一月荒町區長當選就職同年十二月滿期退職  
 大正六年四月常設學務委員當選就職同十年三月滿期退職  
 大正九年五月藤澤村助役當選就職大正十四年六月退職  
 大正十四年六月藤澤村長當選就職現任中  
 大正十二年三月村農會副會長當選就職現任中  
 明治四十五年三月產業組合上伊那部會より表彰せらる

藤澤村三五六番地

### 北原才次郎君

慶應元年十一月六日を以て生る  
 明治十七年七月藤澤村戸長役場筆生拜命  
 同十九年六月歩兵第十八聯隊へ入營同二十年六月上等兵となり二十一年九月除隊下士適任證を賜はる  
 同二十二年九月田地價修正に付評定人に當選  
 同二十二年八月藤澤尋常小學校建築に付建築委員に擧げらる  
 同二十四年一月耕地總代となる  
 同年四月藤澤村就學督勵委員に擧げらる  
 同年八月弘妙寺大總代に當選其後數回の改選に再選尙引續き就職中  
 同二十五年四月村會議員に當選す  
 明治二十七年日清戦役の際召集せられ、同年九月二等軍曹となり、二十八年三月清國俘虜廠舎管理員を命ぜらる、同年四月一等軍曹に任せらる  
 同二十八年十二月藤澤村學務委員に當選  
 同三十年四月藤澤村助役に當選、收入役事務を兼掌す

同三十一年二月藤澤村長に當選  
 同三十三年六月衛生組合長となる  
 同年十二月尙武支會幹事當選  
 三十四年一月北原區長となる  
 同年四月學務委員當選  
 同年十一月藤澤村農會副會長當選  
 同三十六年十月上伊那郡會議員に當選  
 同四十年四月村會議員に當選爾後數回の改選に毎回再選せられ尙引續き就職中  
 同四十一年四月學務委員となる  
 同四十四年五月再び藤澤村長に當選  
 同四十四年七月赤十字分區委員を囑託せらる  
 同四十五年三月藤澤村農會長に當選、大正二年九月聯合衛生組合長となる、大正三年二月藤澤村農會長再選、大正四年五月藤澤村長に再選せらる  
 大正四年十月御即位御大典に付同月十六日長野市藏春閣に於て饗饌を賜はる、大正五年三月賞勳局より御大禮記念章を賜はる、大正七年五月學校建築に付臨時土木委員に當選、同十年四月學務委員に當選、同十三年學校増築に付臨時土木委員に當選